

# 日本消防



- 第30回全国女性消防団員活性化長崎大会を開催
- 第14回日中韓消防協会会議を開催

□ 絵 第30回全国女性消防団員活性化長崎大会

巻頭言 「団結力で市民の安心・安全」……………(一財)福岡県消防協会 会長 角 一徳 …… 1

第14回日中韓消防協会会議を開催……………(公財)日本消防協会 …… 3

日消の動き 新日消会館、一年を経過しました。……………(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文 …… 4

第30回全国女性消防団員活性化長崎大会を開催……………(公財)日本消防協会 …… 5

特別表彰「まとい」を受賞して 「自分たちのまちは自分たちで守る」  
……………長崎県 大村市消防団 団長 田中 研太郎 …… 11

東西南北 (山形県) 「地域を守る」 ～地域防災力の向上を目指して～  
……………米沢市消防団 団長 大平 光信 …… 13

東西南北 (石川県) 「地域防災の要としての自負と責任」……………宝達志水町消防団 団長 西 明男 …… 15

東西南北 (熊本県) 「自分たちのまちは自分たちで守る」……………嘉島町消防団 団長 太田 憲治 …… 17

シンフォニー (兵庫県) ～未来の女性消防団員をイメージして～  
……………加古川市消防団 女性分団 分団長 藤田 千帆 …… 19

消防団加入促進への取組み 消防団PR動画「SHOU\_BOU\_DAN」をご覧ください  
……………長野県 危機管理部 消防課 …… 21

消防団の現況……………(公財)日本消防協会 …… 23

「集団扱自動車保険」制度のご案内……………(生協)全日本消防人共済会 …… 26

火災予防条例(例)の一部改正について……………総務省消防庁 予防課 …… 27

あなたの命を守るマイナ救急 マイナ救急に関するお知らせ……………総務省消防庁 救急企画室 …… 29

女性防火クラブの活動の紹介と参加の呼び掛け……………総務省消防庁 地域防災室 …… 30

令和7年秋の消防関係叙勲及び褒章伝達式……………総務省消防庁 …… 31

うちの団のPR(山形県) 大規模災害に対応できる消防団を目指して  
……………南陽市消防団 団長 色摩 貞樹 …… 43

うちの団のPR(熊本県) 地域防災力の強化に向けて ～信頼される消防団を目指して～  
……………和水町消防団 団長 小山 亮 …… 44

うちの名物団員……………山形県、石川県、兵庫県、福岡県、熊本県 …… 45

消防団の広場(新潟県) 郷土の為に……………阿賀町消防団 団長 伊藤 昭夫 …… 47

編集後記

### 表紙写真説明

「<sup>おぼなざわ</sup>銀山温泉」は、山形県尾花沢市にある温泉です。

大正時代の面影を残す温泉旅館街。

タイムスリップしたかのようなレトロな景色が広がり、ノスタルジックな建物が軒を連ねる光景。夕暮れになるとガス灯に火がともしり幻想的な景色が広がります。

雪化粧をまとった温泉街の美しさは、冬の観光地として高い人気を誇ります。

写真提供者：尾花沢市

# 第30回全国女性消防団員活性化長崎大会

令和7年11月13日(木)【長崎県長崎市】

(5頁～10頁に掲載)



## 『団結力で市民の安心・安全』

(一助)福岡県消防協会 会長 角 一徳



本年は、岩手県大船渡市をはじめとする林野火災や全国各地で大雨による被害が多く発生しております。本県においても、8月からの大雨では、県内各地で線状降水帯が継続して発生し、河川の氾濫により、2名の方が流されて亡くなり、また、広い地域で土砂崩れ等により住宅が全半壊し、浸水被害も数多く発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、福岡県内には、60市町村に73の消防団があり、令和7年4月1日(火)現在、22,732人(うち女性消防団員970名)の消防団員が郷土愛護の精神の下、一致団結して地域の安全・安心のために日々消防団活動に努めています。

まず、本県消防協会の主な事業について紹介をさせていただきます。

初めに、消防操法大会についてであります。本年9月7日(日)に第6回福岡県女性消防操法大会を開催しました。大会には、4隊が出場し、日ごろの訓練の成果を存分に発揮され、私の地元である筑後市女性消防隊が全国大会へ駒を進めました。昨年開催した第27回福岡県消防操法大会では、小型ポンプの部に12隊、ポンプ車の部に24隊が出場しました。ポンプ車の部で優勝した新宮町消防団は、全国大会において、2大会連続で全国制覇を果たし、改めて本県の消防ポンプ操法技術の高さを示

していただきました。なお、本県大会では、令和4年度から映像をYouTube(ユーチューブ)でライブ配信するとともに、逐次、成績をホームページにアップして、広く多くの方々に見ていただけるよう取り組んでおります。

次に、本県では、女性消防団員の活動の活性化を図るため女性消防団員研修会を毎年開催しております。本年は、2月20日(木)に基調講演、女性消防団による活動事例や防火啓発活動の発表、情報交流会を開催しまして、42団164名が参加し、活発な意見交換が行われました。

当協会では、引き続き、県や市町村等と連携し、消防団員の加入促進のほか、消防団の装備の改善、消防団員の教育訓練の充実に取り組んでおります。

さて、福岡県は、人口約500万人を擁する九州最大の都市圏を有し、産業・文化・観光の多彩な魅力にあふれた地域です。北部は国際貿易港を抱える北九州、中央には九州の玄関口である福岡市が広がり、南部は筑後川流域の豊かな田園地帯が広がっています。私たちの筑後市も、県南部に位置し、古くから筑後川とともに発展してきた水と緑のまちです。豊かな自然と交通の便に恵まれ、歴史ある神社仏閣や伝統行事が息づく地域でありながら、近年は工業団地の整備や住宅地開発も進み、人口約4万8千人の活気あるまちとして成長を続けています。

この筑後市には、現在335名の団員からなる消防団が組織されており、市民の生命・身体・財産を守るため、日夜活動しています。火災はもちろん、近年増加傾向にある豪雨災害や台風時の警戒巡視、行方不明者の捜索活動など、多岐にわたる災害対応にあたるほか、地域行事や火災予防広報、幼年消防クラブとの交流など、地域防災力の要として欠かせない存在です。特に昨今の九州北部豪雨では、氾濫危険情報に応じて全団員が出動し、地域住民への避難呼びかけや水防活動に尽力しました。こうした迅速な対応が、市民の被害軽減に直結していると感じます。

しかしながら、現状には課題も少なくありません。団員の高齢化や、若年層の入団希望者の減少は深刻であり、昼間の火災発生時には出動可能人数が不足するケースも見られます。地域コミュニティの希薄化により、防災訓練や行事への参加率も低下傾向にあります。また、災害の激甚化・頻発化により、消防団に求められる活動の幅と質は年々高度化しており、団員の負担が増しているのが実情です。これらの課題を解決するためには、まず団員の処遇改善と装備資機材の充実が不可欠です。加えて、消防団活動の意義や魅力を市民に積極的に発信し、地域全体で消防団を支える雰囲気づくりが求められます。

今後の展望として、私は「地域全員参加の

防災」を掲げたいと思います。消防団だけではなく、自主防災組織、自治会、事業所、学校といった地域のあらゆる主体が連携し、災害に強いまちづくりを進める必要があります。その中心的役割を果たすのが消防団です。最新の災害対応知識や技能を身につけ、ICT（情報通信技術）やドローンなどの新しい技術も活用しながら、より迅速かつ効果的な活動を展開できる消防団へと進化していかなければなりません。

また、次世代の担い手育成も急務です。若者や女性、企業勤務者が無理なく参加できる体制づくり、例えば短時間・機能別団員制度の活用やオンライン研修の導入など、多様な働き方やライフスタイルに対応した仕組みを整備することで、持続可能な消防団を目指します。消防団活動が「地域を守る誇りあるライフワーク」として市民に浸透し、誰もが安心して暮らせる地域社会の礎となることを願っています。

「団結力で市民の安心・安全」。この言葉は、私たち消防団員にとって原点であり、行動指針です。一人の力には限りがありますが、仲間と心をつなぐれば大きな力となります。これからも団員一同、結束を固め、市民の期待に応えるべく活動してまいります。皆さまにおかれましても、引き続き消防団へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



福岡県女性消防操法大会



筑後支部消防操法大会

# 第14回日中韓消防協会会議を開催

(公財)日本消防協会

(公財)日本消防協会は、平成21年から中国消防協会及び韓国消防安全院とともに毎年日中韓消防協会会議を開催し、情報交流を行っています。

14回目となる令和7年度の日中韓消防協会会議は、令和7年11月19日(水)に、韓国・釜山で開催しました。(公財)日本消防協会から秋本会長以下2名、中国消防協会から曹副会長以下5名、韓国消防安全院から朴理事以下7名が出席しました。

会議では、朴理事を議長として、各国の消防の動向について情報交流を行いました。議題については次のとおりです。

- 1 IT産業の発展によって消防に生じた変化(韓国消防安全院)
- 2 資格制度を基盤とした中国の消防教育訓練の発展(中国消防協会)
- 3 地球環境の変化等に伴う様々な自然災害への対応((公財)日本消防協会)

それぞれの議題をテーマとして議論しましたら、各国に共通する問題が数多くあることがわかり、今後の会議では、日中韓3カ国の消防協会は、国民の安全をより確かなものにするよう消防活動に関する情報交流、必要な協力をし、友好交流の一層の進展に努めることとしました。

最後に、次回の会議は中国で開催することとされました。



日中韓消防協会会議の様子



会議終了後の記念写真

# 新日消会館、一年を経過しました。

(公助)日本消防協会 会長 秋本敏文

多くの方々のご協力を頂いて、10年がかりで完成した新しい日本消防会館は、令和6年10月から一般の皆さんのご利用を含めてオープンしました。そうして、多くの方々にご利用頂きながら、早いもので、もう1年を経過しました。

全国の消防関係の皆さんにも多数ご覧頂いていまして、今後の予約も相当多数あります。消防の皆さんに、この会館を身近に感じて頂けるのは、何よりもうれしく思います。

令和6年10月3日の消防殉職者慰霊祭が最初の会館使用でしたが、その後、11月29日には、天皇陛下のご臨席を頂き、石破茂総理、額賀福志郎衆議院議長、関口昌一参議院議長、今崎幸彦最高裁長官、村上誠一郎総務大臣のご出席を頂きまして、自治体消防75周年記念大会を開催いたしました。丁度臨時国会開会という時期になったのですが、皆様にご配慮頂き、無事予定どおり開催することができました。今もありがたく感謝いたしております。

その他、地域防災力の充実強化をさらに進める大会も行いましたが、令和7年7月2日には、世界主要国のご参加を頂いて、「山火事など世界災害」国際会議を開催しました。世界中で大規模な山火事などの災害が発生しており、各国の消防はそれぞれ活躍していますので、国際的な情報交流を行うことは意味があると考えて開催を決定したのですが、決定後、岩手県大船渡市で大きな山火事が発生しましたので、益々大変な意味のある国際会議になったようです。

新会館のホールは、地方自治関係団体や一般の皆さんのイベント会場としても利用されており、音響など好評ですので、ご利用頂く皆さんは徐々に増加し、最近の予約状況では、年間200日以上のご利用が見込まれるようになっていたのですが、会館運営の事情も考えながら、一層の利用拡大、それに伴う運営体制の強化などを考えなければなりません。また、地下の飲食店向けスペースには、1店舗入居して頂いていますが、さらに入居店舗を増やすよう努力しているところです。

1階の日本消防防災情報センターは、新会館のシンボリックな重要な施設と考えながら、多くの方々のご意見を頂き、みんなでがんばって整備したのですが、大きな画面の展示内容をこれからどうするかについて、そろそろ関係の方々のご感想などをうかがうのはどうかと考え始めています。また、小画面でご覧頂ける国内各地の消防活動、地域防災力強化への住民の皆さんのご活動等については、各地でお手持ちの映像をさらにご協力頂けるようお願いしています。

6階の「消防人 たまり場」は、消防関係の皆さんの上京時のお休み所、地域等を越えたおつき合いの場としてご利用頂くように用意しました。もっと利用して頂けるよう気をつけてまいります。

本当に多数の方々のご協力を頂いて完成することができましたので、深い感謝の気持ちをもって、できるだけ有効な活用を進めるよう、みんなでさらに努力してまいります。

# 第30回全国女性消防団員活性化長崎大会を開催

(公財)日本消防協会

令和7年11月13日(木)、長崎県長崎市の出島メッセ長崎、コンベンションホールにおいて、第30回全国女性消防団員活性化長崎大会を開催し、全国から約2,500名の女性消防団員等関係者の方々が参加しました。

全国女性消防団員活性化大会は、全国の女性消防団員が一堂に集い、日頃の活動やその成果を紹介するとともに、意見交換を通じて連携を深めることにより、女性消防団員の活動をより一層活性化させることを目的として毎年開催しています。

節目である第30回の全国女性消防団員活性化長崎大会は「来んね！平和の街へ 島々へ～未来へ、長崎でつながる女性消防団～」をテーマに掲げ、午前の部では全国からの応募のなかから選りすぐられた5団体による活動事例発表、午後の部では、株式会社ジャパネットたかた創業者の高田明さんによる記念講演や選抜された2団体による防火防災啓発劇、日本消防協会秋本会長がコーディネーターを務め女性消防団員とのパネルディスカッションが行われました。

情報交流会では、長崎県のご当地グルメをはじめ様々な料理が並び、龍踊等の郷土芸能が披露され、地域を越えた交流が図られる活気に溢れた大会となりました。

## 開 会 式



大会旗入場  
新上五島町消防団 田端 栄子さん  
雲仙市消防団 中村 久美さん  
西海市消防団 谷川 文香さん



開会宣言  
佐世保市消防団  
西山 静香さん



主催者挨拶  
総務省消防庁 大沢 博長官



主催者挨拶  
公益財団法人日本消防協会 秋本 敏文会長



主催者挨拶  
公益財団法人長崎県消防協会 川上 清記会長



開催地知事挨拶  
長崎県 大石 賢吾知事



開催地市長挨拶  
長崎市長代理 柴原 慎一副市長



全体の様子

## 活動事例発表



五所川原市消防団(青森県)  
《命をつなぐ・・・おらほの消防団》

緊急連絡カードと心肺蘇生の実体験について発表していただきました。常備消防との連携した取組みと女性団員総務分団として応急手当の普及に重きを置き、有事の際の救急隊員が到着するまでの10分間に命を繋ぐ「心肺蘇生」ができる消防団員の育成活動に取り組んでいます。



北上市消防団(岩手県)  
《交付車両を活用した消防団活性化計画  
～それゆけ！北上さくら隊とクーちゃん号～》

消防団員のなり手不足を解消するための広報や、機能別分団化した女性消防団員隊による日本消防協会から寄贈された防災学習用資機材・車両を使用した活動の見直しについて発表していただきました。



広島県内消防団(広島県)  
《シン・スキル×女性消防団員！地域防災力強化計画》

県内の研修を契機に集まった団員が連合を組み、広島県が主体となって取り組んでいる女性消防団員地域防災力強化研修について発表していただきました。



四国中央市消防団(愛媛県)  
《未来につなぐ消防団活動》

できる人が、できるときに、無理のない活動を行うといった持続可能な消防団活動を目標としており、子育て世代の入団をきっかけに活動を見直し、取り組んでいる内容について発表していただきました。



長崎市消防団(長崎県)  
《今後の女性消防団の活動について》

幼児への防災教育や広報活動について、女性消防団員が現在果たしている役割と、これから求められる活動について発表していただきました。

## アトラクション



シッシーチャーさん《二胡の演奏》

## 記念講演 テーマ：夢持ち続け日々精進



《高田明さん》

株式会社ジャパネットたかた創業者で、現在は株式会社エアアンドライブ代表取締役の高田明さんをゲストに迎え、女性消防団員へ激励をいただくとともに、日頃から目標や夢を持ち続け、情熱を持って行動することの大切さをお話しいただきました。

## 啓発劇



江別市消防団(北海道)  
「幼児からの地域防災教育」



鹿児島市消防団(鹿児島県)  
「ぼくはヒーローになる」

## パネルディスカッション



コーディネーター (公財)日本消防協会

青森県五所川原市消防団	齋藤 日出さん
岩手県北上市消防団	谷村 歩さん
広島県広島市佐伯消防団	城 妙子さん
愛媛県四国中央市消防団	久門 美紀子さん
長崎県長崎市消防団	金山 千尋さん
	秋本 敏文会長



(公財)日本消防協会秋本敏文会長がコーディネーターとなり、パネルディスカッションを行いました。色々な取り組みや課題の経験談を交えて全国各地で消防・防災分野で活躍する女性消防団員とともに、意見交換をしました。パネリストをはじめ会場からも質問が出るなど、とても活発な議論が行われました。

## 閉会式



大会宣言  
長崎市消防団 松本 菊代さん



お礼の言葉  
南島原市消防団 金子 千恵子さん



大会旗引継ぎ  
長崎県消防協会 川上 清記会長→日本消防協会 秋本 敏文会長→北海道消防協会 花田 了彰会長



次期開催地代表挨拶  
北海道消防協会 花田 了彰会長



閉会宣言  
諫早市消防団 松村 浩美さん



次期開催地 歓迎メッセージ披露  
第31回全国女性消防団員活性化北海道大会  
《“イランカラッテ” 緑豊かな北の国へ～笑顔を守る女性消防団員～》  
令和8年9月25日(金)札幌コンベンションセンター

## 会場風景



物販ブースの様子



PR展示コーナーの様子



地元をPRする女性消防団員



## 情報交流会



主催者挨拶  
公益財団法人日本消防協会 秋本 敏文会長



開催地代表挨拶  
長崎県 大石 賢吾知事



鏡開き



乾杯の挨拶  
長崎市長代理 柴原 慎一副市長



会場の様子



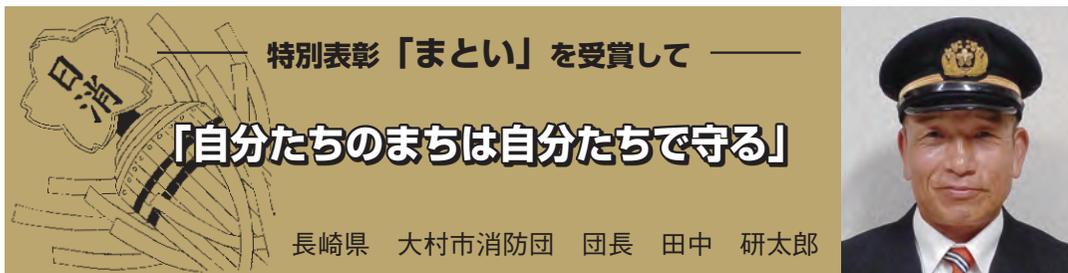
ご当地グルメをはじめ様々な料理



参加者の様子



終了後のお見送りの様子



## 1 はじめに

大村市消防団は、令和7年3月7日(金)ニッショーホールで開催されました「第77回日本消防協会定例表彰式」におきまして、最高榮譽である特別表彰「まとい」を受賞しました。

全国の消防団の中から「まとい」を受賞できましたことは、大村市消防団発足以来、数多くの先輩方がこれまで積み上げてこられた伝統と、ポンプ操法の全国大会準優勝をはじめ、これまでの消防団活動の実績の賜物であると思っております。

また、大村市消防団に対しまして、ご支援・ご協力いただいた消防関係機関・地域の皆様のおかげをもちまして受賞につながったものであり、深く感謝申し上げます。

## 2 大村市の紹介

大村市は長崎県のほぼ中央に位置し、東に多良山系を仰ぎ、西に波静かな大村湾を望むことができ、自然豊かな風景が数多く広がる

まちです。県内で唯一人口が増加し続ける都市であり、人口99,583人となり、10万人を目指してカウントダウンを開始しています。世界初の海上空港である長崎空港、高速道路ICがあり、令和4年には西九州新幹線が開業し、交通利便性の良さから、さらなる発展が期待されています。

## 3 大村市消防団の紹介

大村市消防団は団本部と15個分団で構成されており、568名の団員で活動を行っています。主な装備は消防ポンプ車15台、小型ポンプ積載車13台、小型可搬ポンプ8台を装備しています。火災発生時には、常備消防である県央地域広域市町村圏組合消防本部の指揮の下、消火活動にあたっています。分団同士の団結も強く、日頃から合同訓練を実施し、管轄区域以外での火災等では管轄区域を超えて連携を行い、市民の安心・安全を守るために活動しています。



「特別表彰まとい」受章祝賀会



第25回全国消防操法大会



大村市消防団放水競技大会

## 4 大村市消防団の活動

大村市消防団では、5月は大村警察署の協力を得て団員を対象に、消防車両の運転技術の向上及び夜間運転の特性を学ぶ緊急車両安全運転講習会を実施しています。また、6月には大村消防署の協力の下、昇任した幹部団員及び新入団員を対象に、礼式、車両取扱、ホース延長、水防工法等を習得する夏季特別訓練を実施し、11月には市内15個分団が一堂に集まり、放水競技大会を開催し、消防用機械器具の取扱い及び操作技術の向上に努めています。その他にも毎年恒例の出初式、春季火災想定訓練や市内の各イベントでのPR活動など年間を通じて様々な活動に取り組んでいます。

消防操法大会においては、平成28年度に長崎県ポンプ操法大会で優勝し、第25回全国消防操法大会「小型ポンプの部」に出場し、初出場で準優勝という結果を残すことができました。この結果に満足することなく、全国優勝を目指して、日々、訓練に励んでいます。



消防出初式一斉放水

## 5 おわりに

消防団員が減少し、団員を確保することが困難になってきています。本市では若手団員同士が自由に意見を出せる場を設けて、そこで出た団員の意見をもとに団員確保に向けて効果的な活動や処遇改善等を検討しているところです。一方で、近年では自然災害が多発し、特に大雨、台風においては毎年、日本各地で甚大な被害をもたらしています。本市においても令和2年7月に豪雨災害が発生し、観測開始以来最大となる雨量を観測しました。市内各地でがけ崩れや浸水が発生し、多くの団員が地域の警戒巡視に当たり、発生した災害の応急対応に努めました。災害がいつ発生しても身の安全を確保しつつ迅速に対応する必要があります。そのためには有事の際のみならず日頃から危機感や防災意識をもって消防団員一人一人が消防団活動に取り組む必要があります。「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識を胸に今後も消防防災における地域のリーダーとして市民の安全・安心を守るために努めていく所存であります。このたびの受賞にあたり格別なご高配を賜りました、日本消防協会、長崎県消防協会をはじめ、大村市消防団を常日頃支えていただいている皆様に深く感謝を申し上げ受賞のご挨拶とさせていただきます。



## 「地域を守る」

～地域防災力の向上を目指して～



米沢市消防団 団長 大平 光信

### 1 米沢市の紹介

米沢市は、山形県の南部、置賜地方に位置する都市です。東に奥羽山脈、南は吾妻連峰、西に飯豊連峰と二千メートル級の山々に囲まれた盆地で、四季折々の豊かな自然が特徴です。冬期間に開催される「上杉雪灯籠まつり」をはじめ、四季のまつりも魅力のひとつとなっています。

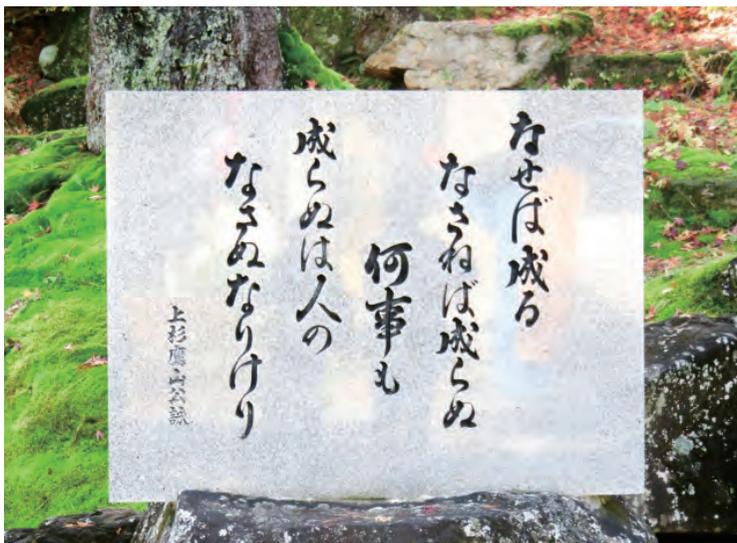
また、上杉家ゆかりの歴史ある城下町としても知られ、とくに江戸時代に藩主を務めた上杉鷹山公は、財政難に苦しんだ藩を立て直した名君として全国に名を残しています。「なせば成る なさねば成らぬ何事も 成らぬは人の なさぬなりけり」は、今も米沢の人々の精神に根付いています。

### 2 米沢市消防団の紹介

米沢市消防団は、1948年(昭和23年)に消防組織法が施行されたことにより、1949年(昭和24年)に正式に発足しました。

現在は団本部と第1分団から第16分団で構成されており、727名の団員(女性団員6名)が活動しています。

主な装備については、消防ポンプ自動車8台、小型動力ポンプ付き積載車21台、軽資機材搬送車6台、小型動力ポンプ40台を保有し、「自らの地域は自ら守る」という使命感を胸に、日々活動しています。



なせば成るの碑

### 3 米沢市消防団の活動

米沢市消防団は、団本部及び各分団長を中心に災害時における活動だけでなく、消防団員として必要な知識や技術の習得にも力を入れています。各分団の基本的な訓練に加え、副団長を中心に企画立案した応用訓練などにも積極的に取り組んでいます。

近年増加傾向にある豪雨災害に備え、水防工法研修会を開催し、専門的な知識と技術の習得に努めています。また、近隣市町で発生した大規模な山林火災を教訓に、山林火災を想定した中継送水訓練を実施し、地域の実情を踏まえた技術力の向上を図っています。

さらに、米沢市消防団にはラッパ隊や女性消防団が組織されており、外郭団体の婦人防火指導員連合会と協力しながら予防広報活動にも取り組んでいます。



水防工法研修会の様子



起震車展示の様子

### 4 消防団入団促進活動への積極参加

米沢市消防団は、消防団入団促進活動にも積極的に取り組んでいます。

消防団の力向上モデル事業の一環として、常備消防が企画する「消防ふれあいフェスティバル」内で、煙体験や起震車による地震体験、日本消防協会より寄贈された防災学習活動車及び資機材の展示を実施しました。

将来の担い手である子供たちや保護者にチラシやパンフレット、ノベルティグッズ等を配布し、各ブースを体験してもらうことで幼少期からの防災意識の向上を図るとともに、保護者の方々には消防団活動への理解を深めていただく良い機会となりました。

### 5 おわりに

本市消防団でも団員数の減少が課題となっており、団員確保が困難になっています。そんな中、消防団入団促進活動への積極的な参加は、消防団の役割や重要性の理解を促し、地域で活躍している消防団のイメージアップにつながると感じています。

近年は、近隣住民とのつながりが薄くなっている地区もありますが、消防団員は地域住民の皆さんが安全安心に暮らせるよう、日々訓練や啓発活動に取り組んでいます。

「なせば成る」の精神のもと、住民の皆さん一人ひとりが防災意識を高く持ち、地域全体で防災に取り組める組織づくりを進めてまいります。消防団に興味のある方は、ぜひ私達と共に活動していきましょう。



# 「地域防災の要としての 自負と責任」



ほうだつしみずちょう  
宝達志水町消防団 団長 西 明男

## 1 宝達志水町の概要

本町は、石川県のほぼ中央に位置し、能登半島の玄関口となっています。

東には能登最高峰の宝達山を頂に宝達丘陵帯とよばれる里山が連なっており、西には日本で唯一、車で波打ち際を走ることができる「千里浜なぎさドライブウェイ」を有している自然豊かな地域であり、古くから能登と加賀、越中(富山県)を結ぶ要衝として重要な役割を担っていました。



千里浜なぎさドライブウェイ

## 2 宝達志水町消防団の紹介

宝達志水町消防団は平成17年の町村合併に伴い、旧押水町消防団と旧志雄町消防団を統合し、全6分団で発足しました。

その後、平成30年に4分団に再編、団本部内に女性団員と機能別団員を新たに発足し、現在に至ります。

団員数は条例定数149名に対し134名(令和7年9月1日(月)現在)で充足率は約90%であり、消防車両は団本部に広報車

1台と救助用資機材搭載多機能車を1台、各分団に消防ポンプ車を配備しています。

## 3 宝達志水町消防団の活動

毎月実施している巡回広報に加え、6月に水防研修会、11月の火災予防運動に併せて特別消防対策区域火災防ぎょ訓練、12月には年末特別警戒として巡回強化、1月に消防出初式と文化財火災防ぎょ訓練、3月に林野火災防ぎょ訓練を例年実施しています。

また、昨年は機関員操作訓練や全団員を対象とした普通救命講習を実施するなど、団員のスキルアップを図っています。

女性団員については常備消防が実施する小学校、保育所等への避難訓練や商業施設での火災予防の啓発活動、一人暮らしの高齢者宅への火災予防診断にも常備消防のサポートとして参加し、広く活動しています。



令和6年度特別消防対策区域火災防ぎょ訓練

## 4 災害への対応

近年、全国的に大規模な災害が発生しており、石川県においても災害が頻発し、住民の生命や財産を脅かしています。

当町では、今年度に入り大雨・洪水警報が4度発令されており、令和7年9月8日(月)には土砂災害警戒情報が発表されるほどの大雨に見舞われました。

河川の水位上昇による越水も発生しましたが、床下浸水を防ぐための水防活動を迅速に実施し、被害を未然に食い止めることができたのは日頃の訓練の賜物であると痛感するとともに訓練の重要性を再認識しました。

また、令和6年元日に石川県を襲った能登半島地震も記憶に新しいところがあります。この地震では特に能登地方に甚大な被害をもたらし、多くの尊い命が失われました。

当町では幸いにも人的な被害はありませんでしたが、住家1,878棟が被害を受け、多くの方が住む場所を失い不安な日々を過ごされたかと存じます。

当団では発災直後から人命救助及び被害確認のための緊急巡回や大津波警報の発令に伴い、高台への避難者が殺到したことによる避難誘導と交通整理、避難所の仮設トイレ設置や応急給水の支援等を実施しました。団員の中には自宅が全壊し、家族が避難所に入りながらも活動していた団員もいます。

また、災害対応が落ち着いた後も災害に便乗した犯罪防止のため夜間に巡回を実施しました。

こうした団員の昼夜を問わない献身的な活動に改めて感謝し、団長として誇りに

に思います。

今年度から火災等発生時の常備消防からの出動指令システム更新に伴い、町からの招集方法も一新し、より確実な火災の覚知と効率的な災害対応を行えるようになりました。

引き続き、常備消防や町と連携を深め、一層の防災力の向上に邁進する所存です。



令和7年8月の大雨による道路冠水対応

## 5 おわりに

当団も若年層の町外転出や団員の高齢化等により全国の多くの消防団と同様に団員数が減少傾向にあります。しかしながら、消防団は地域防災の要かつ町民の安心・安全を守るために不可欠な存在であると自負しており、団員確保は防災力の維持に重要なファクターであることから時代に即した組織への見直し、魅力ある消防団づくりを課題に取り組んで参ります。



# 「自分たちのまちは 自分たちで守る」



嘉島町消防団 団長 太田 憲治

## 1 嘉島町の紹介

嘉島町は、熊本県のほぼ中央部に位置する自然豊かな町です。面積は約16平方キロメートルと小規模ながら、矢形川・御船川・緑川・加勢川の各河川に囲まれ、河川の中流域に広がる水と緑に恵まれた環境が大きな魅力となっています。町の東部には清冽な清水をたたえる湧水地が点在しており、「平成の名水百選」にも選ばれている一大湧水群を形成しております。

特に町の象徴ともいえる「浮島熊野座神社(浮島神社)」は水面に浮かんでいるように見える幻想的な社殿で知られ、四季折々の景色で訪れる人々に安らぎを与えています。

## 2 嘉島町消防団について

嘉島町消防団は令和7年4月15日(火)現在、1消防団、4分団、13部、1音楽隊で構成され、条例定数300名に対して、274名の団員が活動しております。各地域13カ所それぞれの拠点に小型ポンプ積載車各1台を配備し、日々地域社会の安心と安全を守るため活動しております。

平成28年熊本地震による災害に際し、人命の救助と安全確保及び被害の軽減に貢献したことが評価され、平成29年には「防災功労者内閣総理大臣表彰」を賜り、令和6年度には平素から消防の使命を達成することに努める姿勢が評価され日本消防協会「優良消防団(表彰旗)」を賜ることができました。これら受章を機に、いっそう消防団としての責務を全うする覚悟を強めました。



浮島熊野座神社(浮島神社)



放水訓練



第35回熊本消防操法大会

### 3 嘉島町消防団の活動

嘉島町消防団の主な活動は、従来からの任務である消火活動、人命救助活動はもちろんのこと、近年激甚化する台風や豪雨などの自然災害に備え、河川越水を見越した河川巡視活動や道路冠水による避難誘導活動といった周囲を河川に囲まれた町の立地特性に沿った地域防災活動等を担っております。

令和7年8月10日(日)からの大雨の際には、相次いで線状降水帯が発生し、町内でも多くの集落内道路が冠水する事態となりました。そんな中、冠水により自力避難ができなくなった要救助者の救助や物資の配達、通報地への迅速な出動、各集落の情報収集など地域を守る地域防災の「最後の砦」として消防団は大きな活躍をしました。

また、平時の活動として出初式などの各種式典行事のほか、組織団結力や個々の技術向上のための訓練、火災予防広報のための火災予防パレードなど日々精力的に活動しております。特に小型ポンプ操法競技大会には力を入れており、2年に一度それぞれの部が技術を磨き、互いに高め合っています。当町が属する上益

城郡大会では3大会連続の優勝を飾っており、5町からなる郡支部代表として3大会連続で熊本県大会にも出場し、平成16年には熊本県代表として全国大会へも出場しております。

### 4 おわりに

近年、全国各地で豪雨や地震など自然災害が激甚化・頻発化しており、ここ嘉島町においてもその影響を強く実感しております。私たち嘉島町消防団は、こうした厳しい現実には直面しながらも、「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神を原点に、地域の安全と安心を支えるため日々活動を続けております。

消防団を取り巻く環境は年々変化しており、当町においても団員のなり手不足など、様々な問題に直面しております。諸先輩方が守ってこられた安心して暮らせる嘉島町を次世代へ引き継ぐためにも、未来を担う若い世代の加入促進、そして時代に即した多様な人材が活躍できる活動体制の構築に努めていきます。これからも住民のみなさまと共に歩み、信頼される嘉島町消防団であり続けられるよう、団員一同精進してまいります。



## シンフォニー（兵庫県） ～未来の女性消防団員を イメージして～

加古川市消防団 女性分団 分団長 藤田 千帆

### 1 はじめに

加古川市は、兵庫県南部の播磨平野を貫流する県下最大の河川「加古川」の下流に位置し、総面積は138.48km<sup>2</sup>、人口254,103人の市です。

万葉集に出てくる「印南野」の集落であった加古川には、西国街道（山陽道）が通過し、交通の難所である加古川渡しがあったことから、加古川宿がおかれ、江戸時代には西国諸大名の本陣となり宿場町として栄えました。

明治以降は、肥沃な播磨平野の農業と播磨灘の漁業中心のまちから軽工業のまちへ、さらに播磨臨海工業地帯の拠点として重工業のまちへと変身をとげながら、東播磨地域の中核都市として発展してきました。

### 2 加古川市消防団について

加古川市消防団は、現在、女性分団、

企業連携消防団員を含め1団本部、19分団で構成され、定数1,200名となっています。車両は、消防ポンプ自動車18台、小型動力ポンプ付積載車18台、指揮広報車1台を配備し、市民生活の安全・安心を確保するため、災害対応以外にも地域内での広報活動や自主防災組織への訓練指導を行うとともに、消防団活動への理解と普及啓発に努め、地域防災のリーダーとして重要な役割を果たしています。

### 3 女性分団の活動について

加古川市消防団女性分団は、加古川市消防団の19番目の分団として平成18年4月に消防団の活性化を図るため、男女共同参画社会の考え方に沿って、女性消防団員を採用することにより、消防団活動の範囲拡大を目的とし、団員数20名「リバーエンジェル」の愛称で結成しました。結成から19年が経ち、現在は17名で活動



出初め式ラッパ演奏

しています。

主な活動は、幼稚園での火事・地震等の避難訓練や紙芝居、男性消防団員を対象とした普通救命講習、一般市民への救急講習、火災予防の啓発活動、各種イベントにおける広報活動、出初め式で演奏する消防ラッパの練習等で、男性消防団員と連携して訓練をすることもあり、日々、充実した活動を実施しています。

また、日本消防協会から着ぐるみの「消太」を借用し、幼稚園訓練や啓発活動時には、着ぐるみを着用して参加しており、特に園児には大人気です。各種イベント時には着ぐるみだけでなく、消防車や救急車のイラストで缶バッジを作成し、イベントに参加した子供たちに配布しています。

#### 4 今後の活動に向けて

今後は消防団だけでなく、他機関とも連携して活動の幅を広げることを考えています。具体的には女性分団が少年消防クラブの防火パレード(「火の用心、マッチ一本、火事のもと!」の掛け声を繰り返し行進)に参加して広報活動を行うことで、将来の消防団員への橋渡しになるような活動です。女性消防団員から子供たちに災害に備えることの大切さを伝え、

防災への関心を高めてもらうことも目的の1つです。

また、危惧される南海トラフ大地震では、常備消防だけでは対応が困難になることが予想されます。女性消防団員も災害時に貢献できるよう被災時の避難所の設営、避難所での応急手当や後方支援等、さらには男性消防団員と同様に消防隊としても現場で活躍できるように今後は訓練方法について検討し、スキルアップに努めていきたいと考えます。

#### 5 おわりに

近年、幸いにも大きな災害に見舞われていない加古川市ですが、いつ何が起こるかは予想できません。様々な訓練を実施し、知識・技術の確認とアップデートを行いながら今後の課題、女性分団のあり方を見つけていきたいと思っています。

全国的に女性消防団員は増加傾向ですが、加古川市消防団は、なかなか女性消防団員が増えていないのが現状です。消防団活動の魅力を伝えることで新しい仲間を増やしていく必要があります。

今後、さらに活動の幅を広げて、加古川市消防団女性分団を知ってもらい、より地域貢献ができる消防団活動を目指したいと思います。



広報活動



# 消防団PR動画 「SHOU\_BOU\_DAN」をご覧ください

長野県 危機管理部 消防課

## 1 はじめに

長野県の消防団員数は28,116人(令和7年4月1日(火)現在)であり、全国第3位ですが、前年度から601人、10年前と比べると約2割に当たる7,195人の減少となっており、全国同様に消防団活動への理解促進、消防団員の確保が課題です。

そこで消防課では、令和5年度、将来の消防団の担い手として期待される若い世代に向けて、消防庁の「消防団の力向上モデル事業」を活用し、消防団のPR動画を制作しました。

## 2 動画制作の意図

動画は、学生等若い世代が消防団に関心を持ち、地域になくてもならない消防団の存在や役割の理解を深め、入団の意欲が湧くような内容とすることを意図として制作しました。また、高校生、大学生など10代後半から20代の若者層へ訴えかけようと、TikTok(ティックトック)やYouTube(ユーチューブ)を通してPRしています。工夫した点は、若い世代を引き付ける軽快な音楽と、リピートしても飽きないストーリー性を持たせたことです。

## 3 動画の見どころ

消防団員の雰囲気や伝わるよう、現役の消防団員に出演を依頼しました。長野市、松本市、上田市、飯田市の総勢200名が出演しています。若い世代の動画視聴の傾向を踏まえ、ヒップホップの楽曲「SHOU\_BOU\_DAN」を制作。制作には上田市在住のラップグループ「Mountain Young Mobb(マウンテン ヤング モブ)」が参加しています。また、消防団の皆さんに消防団のやりがいや若い人に伝えたいことなどを聞き、消防団員が持っている情熱や声を反映した歌詞となりました。実際の消防ポンプ車や火の見やぐらなども登場し、消防団の活動が伝わるミュージックビデオとなっています。

YouTube(ユーチューブ)等での公開開始は令和6年2月。今年7月末までに3万6千回を超える視聴がありました(旧【長野県】消防団広報チャンネルも含む)。若者世代をはじめ、現役若手団員や幹部団員からも「斬新な動画で、消防団が身近に感じた」、「若い人たちを消防団に誘いやすくなった」、「団員の皆さんの熱心さが伝わってきた」など、多くの感想が寄せられています。

消防団の皆さんの思いがたくさん詰まった動画となっています。ぜひご覧ください！



長野県では、若い世代に向けて、消防団の理解促進を目的としたPR動画を制作しました。消防団について興味をもった方は、QRコードの動画概要欄から、県や消防庁のホームページをご覧ください。

SHOU BOU DAN



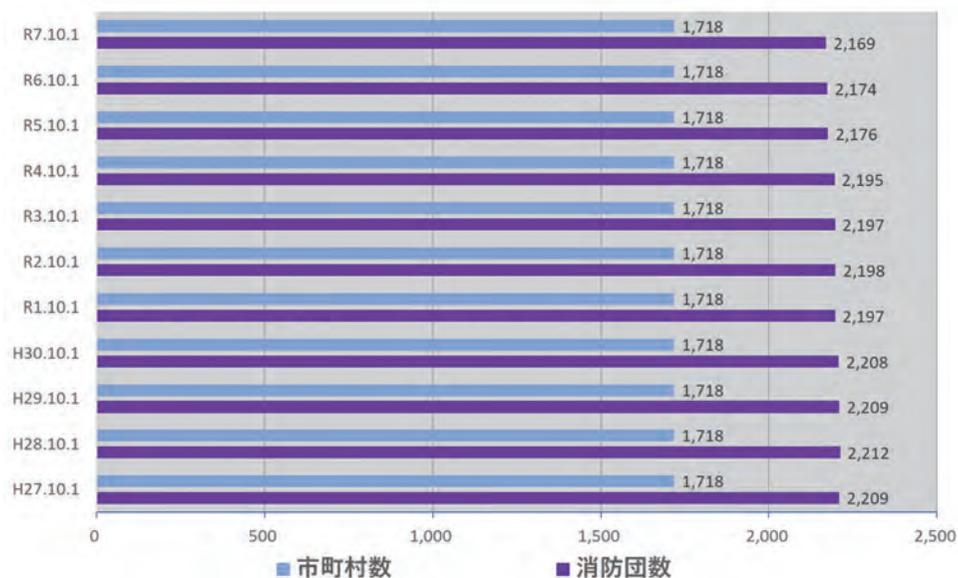
# 消防団の現況

(公財)日本消防協会

## ① 消防団数の動向

平成10年代は「平成の大合併」に伴い、消防団も統合などの影響で減少が続いていましたが、平成20年代後半に入ると合併も一段落し、消防団数の減少幅も緩やかな傾向となっています。

令和6年は2,174団(前年比2団減少)、令和7年は2,169団(前年比5団減少)となっています。【表1】



【表1】市町村数及び消防団数の推移  
(各年10月1日現在 日本消防協会調べ)

## ② 消防団員数の動向

消防団員数は、社会環境の変化(人口減少、少子化による若年層の減少、就業構造の変化、地域社会への帰属意識の希薄化等)から減少が続いています。

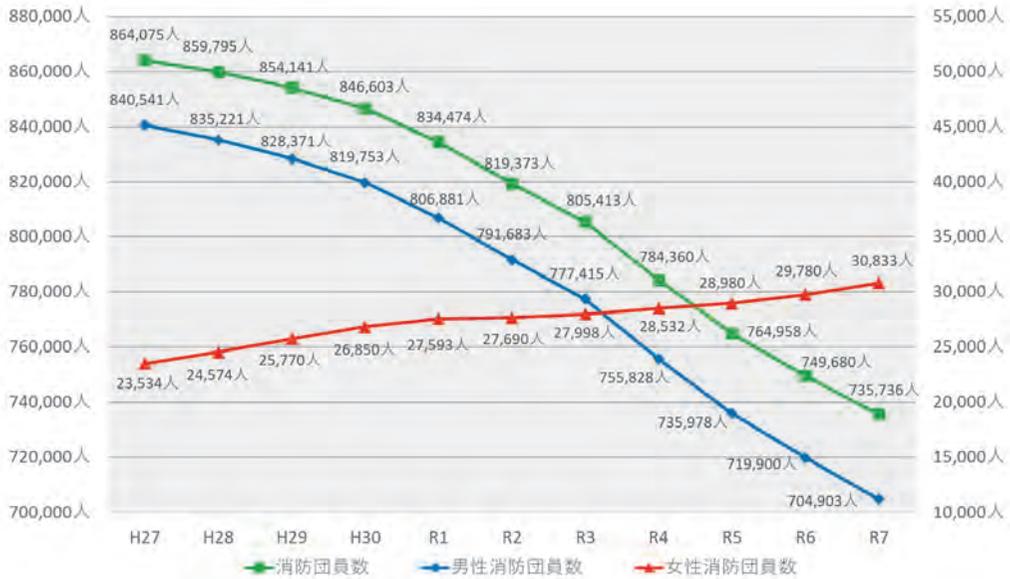
令和7年の消防団員数は、735,736人であり、前年に比べ13,944人減少しています。

女性消防団員は年々増加傾向にあるものの、全体としては、平成27年以降の10年間で128,339人減少、うち令和2年からの5年間だけで83,637人の減少となっています。【表2・表3】

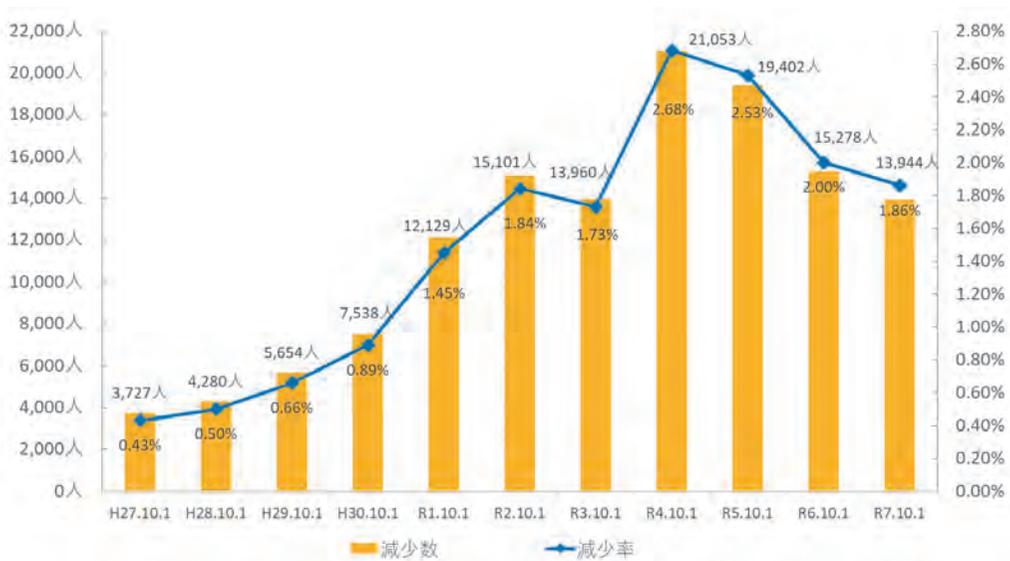
このように毎年、消防団員数は全国的に減少傾向にあるなかで、日本消防協会では総務省消防庁

と連携して様々な消防団員確保の対策(消防団への加入促進、消防団の処遇改善、消防団の装備・教育訓練の充実等)に取り組んでおり、令和6年は2県(福井県、宮崎県)、令和7年は1県(沖縄県)で消防団員数が増加しました。

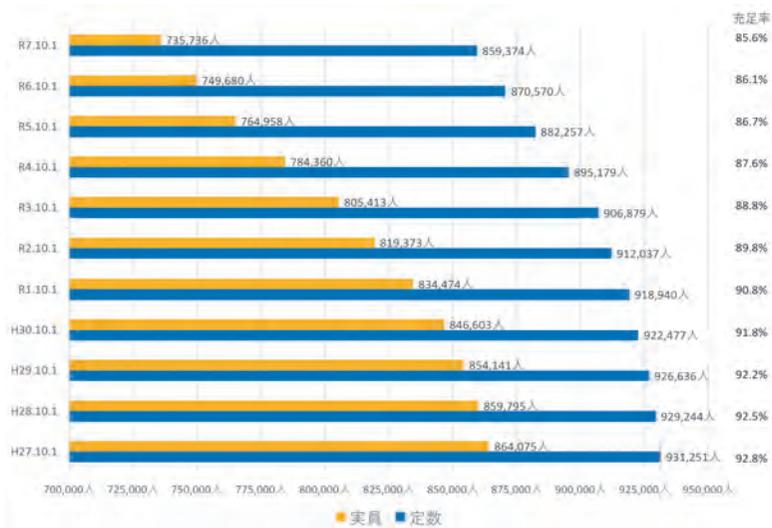
なお、令和7年の定員に対する充足率は85.6%で、令和6年の86.1%と比較して0.5ポイント低下しました。【表4】



【表2】消防団員数の推移  
(各年10月1日現在 日本消防協会調べ)



【表3】消防団員数減少数及び減少率の推移  
(各年10月1日現在 日本消防協会調べ)



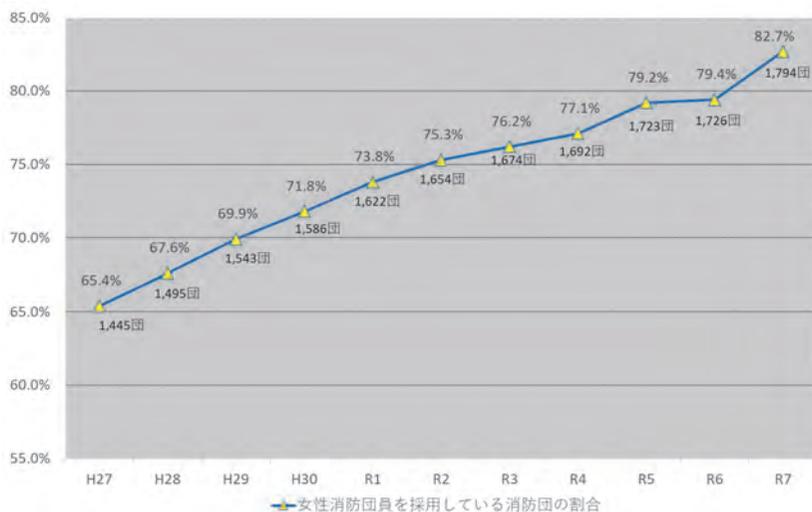
【表4】消防団員数充足率の推移  
(各年10月1日現在 日本消防協会調べ)

### ③ 女性消防団員

女性消防団員を採用している消防団は年々増加しており、令和7年は1,794団(全消防団の82.7%)で、前年より68団増えています。【表5】

地域の安心・安全の確保に対する住民の関心の高まりなどを背景に、女性消防団員の活動も多様化しており、災害時における後方支援活動、住宅用火災警報器の設置促進、火災予防の普及啓発、住民に対する防災教育・応急手当指導等、多岐にわたって活躍しています。

また、近年では、女性消防団員も各分団に所属し火災現場での消火活動など基本的に男女問わず同じ活動を行う消防団も増加しています。



【表5】女性消防団員を採用している消防団数及び割合の推移  
(各年10月1日現在 日本消防協会調べ)





# 火災予防条例(例)の一部改正について

総務省消防庁 予防課

## 1 はじめに

令和7年2月26日に発生した大船渡市林野火災を受けて、消防庁では大船渡市林野火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会(以下「検討会」という。)を開催し、報告書を取りまとめた。本報告書において、林野火災注意報や林野火災警報の的確な発令等によって林野火災予防の実効性を高めることが必要であるとされたことを踏まえ、「火災予防条例(例)の一部改正について(通知)」(令和7年8月29日付け消防予第383号・消防特第159号。以下「改正通知」という。)を发出し、火災予防条例(例)(昭和36年11月22日付け自消甲予発第73号。以下「条例(例)」という。)について所要の改正を行った。また、これに関連して、改正通知と同日に「令和7年大船渡市林野火災の教訓を踏まえた今後の消防防災対策の推進について」(令和7年8月29日付け消防庁次長通知)及び「林野火災の予防及び消火活動について(通知)」の改正について(令和7年8月29日付け消防災第130号等消防庁防災課長等関係課室長連名通知)を发出した。本稿では、今回の条例(例)改正の概要及び運用について解説する。

注)改正条例(例):「火災予防条例(例)の一部改正について(通知)」(令和7年8月29日付け消防予第383号・消防特第159号)別紙に示す〇〇市(町・村)火災予防条例の一部を改正する条例

## 2 火災に関する警報の発令中における火の使用の制限について

(改正条例(例)第29条関係)

林野火災の発生原因の大半はたき火や火入れといった人為的な要因によるものであるため、林野火災の予防上危険な気象状況になった際には、火の使用制限等の徹底を行うことが必要である。そのため、条例(例)上の火災に関する警報の発令中における火の使用の制限について、以下のとおり規定の整理を行った。

### (1)火災に関する警報の定義の整理

火災予防条例(例)上の火災に関する警報は、消防法(昭和23年法律第186号)第22条第3項に規定するものであることを明確にした。

### (2)屋内での裸火の使用に係る制限規定の削除

火災に関する警報の発令中における屋内での裸火の使用に係る制限(窓、出入口等の閉鎖)について、一般的な事務所や住宅における火を使用する設備・器具の従前からの変化等を踏まえ、規定の削除を行った。ただし、地域の実情に応じて、当該規定を引き続き設けることとしても差し支えないこととした。

## 3 林野火災注意報について

(改正条例(例)第29条の8関係)

火災警報は強い制限・罰則を伴うため、消防本部からは発令を躊躇するとの意見がみられる。そのため、消防本部が強い制限・罰則を伴わずに林野火災予防に係る注意喚起等を行い、林野周辺の区域において住民等に火の使用制限の努力義務を課す仕組みである林野火災注意報を創設した。概要は以下のとおりである。

### (1)林野火災注意報の創設

市(町・村)長は、気象の状況が林野火災の予防上注意を要すると認めるときは、林野火災に関する注意報を発することができることとした。

検討会報告書を踏まえ、以下の発令指標に該当する場合には発令することが考えられるが、地域の気象特性等に応じて、適宜発令指標に調整を加えることも可能としている。

### 【林野火災注意報の発令指標の設定例】

以下の①又は②のいずれかの条件に該当する場合

- ① 前3日間の合計降水量が1mm以下 かつ 前30日間の合計降水量が30mm以下
- ② 前3日間の合計降水量が1mm以下 かつ 乾燥注意報が発表

※ 当日に降水が見込まれる場合や積雪がある場合には、発令しないも可能である。

#### (2)火の使用の制限の努力義務

林野火災に関する注意報が発せられた場合は、注意報が解除されるまでの間、市(町・村)の区域内にある者は、火災予防条例(例)第29条各号に定める火の使用の制限に従うよう努めなければならないこととした。

#### (3)対象区域の指定

市(町・村)長は、林野火災の発生の危険性を勘案して、当該火の使用の制限の努力義務の対象となる区域を指定することができることとした。

例えば、森林又はその周囲の一定の範囲内を区域として指定することが考えられる。

#### 【具体的な区域指定の例】

森林の範囲の特定に当たっては、森林法第5条の規定により都道府県知事が作成する地域森林計画や同法第7条の2の規定により森林管理局長が作成する国有林の地域別の森林計画の対象となっている区域を参考とすることなどが考えられる。

なお、森林の面積や当該市町村の消防力、森林周辺の消防水利の状況等を踏まえると、林野火災発生時に広範囲に延焼する危険性が低いと考えられる森林を区域指定から一部除外することも考えられる。

## 4 林野火災警報について

(改正条例(例)第29条の9関係)

消防法第22条の火災警報のうち、林野火災予防を目的としたものについて、林野火災警報との通称を用いることとし、市(町・村)長は、林野火災の予防を目的として火災に関する警報を発したときは、林野火災の発生の危険性を勘案して、火災予防条例(例)第29条各号に定める火の使用の制限の対象となる区域を指定することができることとした。

発令基準については、検討会報告書を踏まえ、以下の発令指標に該当する場合には発令することが考えられるが、地域の気象特性等に応じて、適宜発令指標に調整を加えることも可能としている。

#### 【林野火災警報の発令指標の設定例】

林野火災注意報の発令指標に加え、強風注意報が発表されている場合

## 5 たき火の届出制度について

(改正条例(例)第45条関係)

事前に消防長(消防署長)に届出が必要となる火災とまぎらわしい煙又は火災を発生のおそれのある行為に、たき火が含まれることを明確にした。

また、消防長(消防署長)は、火災予防条例(例)第45条第1項各号に掲げるそれぞれの行為について、届出の対象となる期間及び区域を指定することができることとした。なお、期間及び区域の設定については、下記のような方法が考えられる。

#### 【届出対象区域の設定例】

たき火の届出については、林野火災の発生の危険性を勘案して、林野火災注意報の考え方も参照した上で、必要に応じて対象となる区域を指定する。

#### 【届出対象期間の設定例】

基本的には、林野火災の発生の危険性が高い1～5月は対象時期としつつ、地域の気象特性等を踏まえて対象時期を変更することが考えられる。

## 6 その他(改正条例(例)附則関係)

条例の改正が、可能な限り本年度の林野火災の危険性が高まる時季に間に合うよう、施行期日は、令和8年1月1日とした。

## 7 終わりに

ここまで、大船渡市林野火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会報告書の内容を踏まえた改正条例(例)の概要及び運用について解説した。各市町村においては、各団体の火災予防条例について、可能な限り、本年度の林野火災の危険性が高まる時季に間に合うよう、令和8年1月1日の施行に向けて改正を行っていただき、各消防本部等においては、本稿も参考としつつ、引き続き、適切な運用をお願いしたい。

消防庁としては、今後の運用状況等を踏まえて、より効果的な林野火災予防対策となるよう、必要に応じ、見直し改善に取り組んでいく所存である。

問合せ先  
消防庁予防課  
TEL: 03-5253-7523



あなたの命を守る

# マイナ救急



## マイナ救急に関するお知らせ

総務省消防庁 救急企画室

### 1 マイナ救急で閲覧する傷病者の医療情報

#### (1) 救急活動に必要となる傷病者の情報

救急現場では、119番通報で駆けつけた救急隊員が、傷病者の氏名、生年月日等の基本的な情報のほか、医療機関の受診歴や薬剤情報などの情報の聞き取りを行っています。これらの情報は搬送する医療機関の選定や、救急現場での処置、搬送先の医療機関での治療の準備などに役立てられており、命を守るために欠かせない情報となります。

一方で、病气やけがで苦しんでいる傷病者や、気が動転しているご家族の方から、これらの情報を正確に伝えていただくことは、難しい場合があります。

マイナ救急では、救急現場において救急隊員が傷病者のマイナ保険証を活用し、傷病者の医療情報を確認することで、傷病者の負担軽減、救急隊の円滑な搬送先医療機関の選定、搬送先医療機関での治療の事前準備が可能となります。

#### (2) マイナ救急で傷病者の医療情報を閲覧する仕組み

マイナ救急では、オンライン資格確認等システムで通常表示可能な診療／薬剤情報や特定健診情報に加え、患者の基本情報・医療情報等が集約された救急用サマリーを閲覧しています。救急隊が閲覧する医療情報は、各個人がマイナポータルで閲覧可能となっている医療情報であり、マイナ救急で救急隊が傷病者の医療情報を閲覧した履歴は当該傷病者のマイナポータルで確認することができます。なお、閲覧した傷病者の医療情報は救急隊の端末上に保存されない仕様となっています。また、救急活動に関係のない税や年金の情報を閲覧することはできません。

#### (3) マイナ救急で閲覧する具体的な医療情報

##### ① 診療／薬剤情報

過去5年分の医療機関の受診歴(医療機関名、受診年月)、薬剤情報(調剤年月日、医療機関名／薬局名、

医薬品名、調剤数量等)、手術情報(診療年月日、医療機関名、診療行為名等)、診療情報(診療年月日、医療機関名、診療行為名等)等を確認することができます。

救急隊は、受診歴から、傷病者が定期的に受診している医療機関の正確な情報を確認し、薬剤情報、手術情報、診療情報等から、治療中の疾患や検査内容を推測することができます。

##### ② 特定健診情報

40歳以上が受診する特定健康診査受診結果が表示されます。75歳以上では後期高齢者健康診査の結果が表示されます。特定健康診査受診結果から、特定健診情報(特定健診実施日)、基本項目(身体計測、血圧、血中脂質、肝機能、血糖、尿)、詳細項目(貧血、血清、心電図、眼底検査)、質問票(服薬情報、既往歴、生活習慣)等を確認することができます。

特定健診を受けた時点の既往歴(医師記載)、自覚症状(医師記載)を確認することで、傷病者の症状との関連性も念頭におき、より適切な処置、円滑な搬送先医療機関の選定が可能となります。

##### ③ 救急用サマリー

上記の①診療／薬剤情報は過去5年間分の情報、②特定健診情報は過去5回分の情報を確認できますが、救急用サマリーでは直近の情報を迅速に確認するため、過去3か月分の医療機関の受診歴、薬剤情報、診療情報、過去5年分の手術情報、直近の特定健康診査の実施日等が記載された要約版を確認することができます。

### 2 マイナ救急の活用事例

令和7年10月1日から全国でマイナ救急が実施されており、各消防本部からマイナ救急の活用事例を順次報告していただいています。ここでは、その一部を紹介します。

#### 事例 情報聴取困難かつお薬手帳も無かった事例(医療機関の早期治療に繋がったケース)

通報内容: 夫が椅子に座っていたところ、突然崩れ落ち、地面に倒れこんだ(妻からの通報)  
年齢性別: 62歳男性

現場状況: 傷病者は台所付近に腹臥位であり、意識清明。  
左半身の麻痺により動けない状態であり、うまく喋ることができない状態であった。  
家族も動揺しており、状況を聞き取ることは困難であり、お薬手帳も探せない状態であった。

救急活動: 観察を行ったのち、マイナ救急で薬剤情報を確認し、速やかに医療機関へ伝達した。

#### 〈マイナ救急の有用性〉

傷病者や家族から、情報を聴取することが難しいかつお薬手帳もない状況で、マイナ救急で薬剤情報を確認することにより、多数処方されている薬を正確に医療機関へ伝達することで、医師へスムーズに引継ぐことができ、医療機関の早期治療に繋がった。

#### 問合せ先

消防庁救急企画室

TEL: 03-5253-7529

# 女性防火クラブの活動の紹介と参加の呼び掛け

総務省消防庁 地域防災室

女性防火クラブは、家庭での火災予防の知識の習得、地域全体の防火意識の高揚などを目的に地域で活動している組織です。令和6年4月1日(月)現在、全国で6,016団体、約88万人のクラブ員の皆さんが熱心に活動されています。

## 女性防火クラブの活動

女性防火クラブの主な活動の一つが火災予防への取組です。地域住民や児童・生徒などに対する火災予防知識や防災製品の普及啓発を始め、消火器の取扱訓練など実演を通して、火災予防技術の向上に貢献しています。特に、住宅用火災警報器の設置や維持管理では、イベントを通じた呼び掛けや地域において住宅用火災警報器を共同購入するなど、積極的な活動が実施されています。

また、地域の防災に関する取組においても幅広い活動が行われています。平常時には、地震時の家具転倒防止に関する知識の普及啓発、応急救護訓練の実施、消防団等と連携した地域の防災訓練への参加等が行われています。

他方、災害発生時には、避難誘導、避難所における炊き出し支援等が実施されており、家庭や地域の防災力向上に大きく貢献しています。東日本大震災においても、避難所での炊き出し支援や被災地への義援金・支援物資の提供等の支援活動が各地のクラブで行われました。また、令和6年能登半島地震においても、避難所における炊き出し等の支援が行われました。

さらに、災害発生時の避難などの際に支援が必要となる避難行動要支援者に配慮した地域づくりの一環として、避難行動要支援者宅への日常の家庭訪問による防災点検や、災害時の避難誘導(そのための日頃からの訓練)なども実施されています。

こうした活動は地域コミュニティの活性化にも繋がることが期待されることから、クラブ員の皆さんの知識・経験やネットワークを活かした支援活動に対して、大きな期待が寄せられています。

## 異なる主体と連携

女性防火クラブの活動は、他の地域のクラブとの連携や情報交換により一層の充実が期待されており、令

和6年4月1日(月)現在、43道府県において女性防火クラブの連絡協議会が設立され、クラブ間の意見交換や合同研修など様々な交流が行われています。

また、地域防災を担う消防団や自主防災組織、民生委員や社会福祉協議会などの地域の関係機関・団体との連携を深めることも重要であることから、合同での防災訓練や意見交換など、日頃から顔の見える関係づくりを行うことで、いざという時のスムーズな協力体制の構築が図られています。



火災予防運動での炊き出し訓練の様子  
写真提供：好間女性消防クラブ(福島県いわき市)

## 活動の活性化に向けて

女性防火クラブは地域の防火・防災について重要な役割を担っており、火災や地震等の災害発生時には、地域に根ざした日頃からの活動が非常に大きな力となります。

「自分たちの地域は自分たちで守る」という信念と連帯意識の下、火災や災害に強い安心・安全なまちづくりのため、より多くの方々に女性防火クラブの活動を知っていただくとともに、積極的に参加していただきたいと考えています。

問合せ先

消防庁 国民保護・防災部地域防災室

TEL：03-5253-7561

# 令和7年秋の消防関係叙勲及び褒章伝達式

総務省消防庁

## ◆令和7年秋の叙勲

令和7年秋の叙勲が11月3日付で発令され、全国の3,963名に授与されました。

そのうち、消防関係では、永年にわたり国民の生命等を火災等の災害から防御し、消防力の充実強化に尽力された方々計618名が受章し、11月12日(水)、ニッショーホール(東京都港区虎ノ門)において伝達式を開催しました。

なお、勲章別の受章者数は次のとおりです。

### 令和7年秋の叙勲

瑞宝中綬章	1名
瑞宝小綬章	33名
旭日双光章	4名
瑞宝双光章	45名
瑞宝単光章	535名
合計	618名



梶原総務大臣政務官から  
受章者代表への勲記・勲章伝達  
(秋の叙勲伝達式)



受章者代表から謝辞を受ける  
梶原総務大臣政務官  
(秋の叙勲伝達式)

## ◆令和7年秋の褒章

令和7年秋の褒章が11月3日付で発令され、全国の762名に授与されました。

そのうち、消防関係では、自己の危難を顧みず人命救助に尽力された方々、永年にわたり消防機器の研究開発や製造販売業務、消防設備保守業務等に精励し、業界の発展に大きく寄与された方々、消防団員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与された方々、計107名が受章し、11月19日(水)、中央合同庁舎2号館(総務省)において伝達式を開催しました。

なお、褒章別の受章者数は次のとおりです。

### 令和7年秋の褒章

紅綬褒章	2名
黄綬褒章	7名
藍綬褒章	98名
合計	107名



林総務大臣から受章者代表への  
章記・褒章伝達  
(秋の褒章伝達式)



林総務大臣による式辞  
(秋の褒章伝達式)

それぞれの伝達式では、伝達者(秋の褒章伝達式は林総務大臣、秋の叙勲伝達式は梶原総務大臣政務官)から受章者代表へ勲記及び勲章(章記及び褒章)が手渡されました。

受章者代表から「地域住民の安全確保のため、なお一層尽力」する旨の誓いの言葉を含めた謝辞が述べられました。

式典後、受章者は皇居において天皇陛下に拝謁されました。

## 令和7年秋の叙勲受章者名簿（消防関係）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞小	北海道	元 札幌市 消防正監	佐藤 賢一 (70)	男
瑞双	北海道	元 日高中部消防組合 管内消防団 団長	阿部 幸男 (74)	男
瑞双	北海道	元 函館市戸井消防団 団長	加藤 千州雄 (71)	男
瑞双	北海道	元 西胆振行政事務組合 豊浦消防団 副団長	久保 政徳 (72)	男
瑞双	北海道	元 南宗谷消防組合浜 頓別消防団 副団長	菅原 善治 (76)	男
瑞双	北海道	元 釧路北部消防事務 組合弟子屈消防 団長	藤田 茂 (80)	男
瑞双	北海道	元 根室北部消防事務 組合中標津消防団 団長	吉田 賢一 (82)	男
瑞単	北海道	元 根室北部消防事務 組合別海消防団 副団長	青木 啓安 (70)	男
瑞単	北海道	元 陸別消防団 団長	明河 和夫 (71)	男
瑞単	北海道	元 滝川地区広域消防 事務組合滝川消防 分団長	安達 亮幸 (77)	男
瑞単	北海道	元 岩見沢地区消防事 務組合栗沢消防団 団長	荒井 弘 (72)	男
瑞単	北海道	元 小樽市消防団 分団長	石橋 宗吉 (73)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	北海道	元 渡島西部広域事務 組合木古内消防団 分団長	岩崎 隆喜 (70)	男
瑞単	北海道	元 士別地方消防事務 組合和寒町消防団 分団長	滝澤 安夫 (86)	男
瑞単	北海道	元 西胆振行政事務組 合洞爺湖消防団 副団長	江川 辰雄 (79)	男
瑞単	北海道	元 岩内・寿都地方消 防組合岩内消防団 分団長	江口 重利 (79)	男
瑞単	北海道	元 士別地方消防事務 組合士別市消防団 分団長	大久保 健一 (82)	男
瑞単	北海道	元 南空知消防組合南 幌消防団 分団長	織田 章 (67)	男
瑞単	北海道	元 札幌市豊平消防団 団長	勝木 忠男 (78)	男
瑞単	北海道	元 南空知消防組合栗 山消防団 副団長	梶澤 正則 (66)	男
瑞単	北海道	元 日高東部消防組合 えりも町消防団 団長	川崎 勝 (70)	男
瑞単	北海道	元 日高西部消防組合 日高消防団 分団長	菅野 登 (70)	男
瑞単	北海道	元 釧路北部消防事務 組合樺茅消防団 部長	菊地 信行 (72)	男
瑞単	北海道	元 芽室消防団 副団長	品田 裕直 (68)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	北海道	元 留萌消防組合小平 消防団 分団長	福塚 十六 (84)	男
瑞単	北海道	元 帯広市消防団 分団長	杉江 正 (75)	男
瑞単	北海道	元 釧路市消防団 分団長	鈴木 敏夫 (72)	男
瑞単	北海道	元 旭川市消防団 分団長	高木 二郎 (69)	男
瑞単	北海道	元 登別市消防団 分団長	高橋 茂樹 (74)	男
瑞単	北海道	元 釧路山田行政組合 江差町消防団 分団長	津村 敦 (82)	男
瑞単	北海道	元 北見地区消防組合 留辺蘂消防団 副団長	西野 克利 (73)	男
瑞単	北海道	元 北十勝消防事務組 合土幌消防団 副分団長	西部 秀樹 (74)	男
瑞単	北海道	元 利尻礼文消防事務 組合利尻町消防団 分団長	利尻 文洋 (62)	男
瑞単	北海道	元 北後志消防組合余 市消防団 分団長	野呂 克明 (67)	男
瑞単	北海道	元 富良野広域連合中 富良野消防団 副団長	橋谷 豊和 (65)	男
瑞単	北海道	元 北後志消防組合赤 井川消防団 副団長	原 田 忠 (86)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	北海道	元 釧路東部消防組合 厚岸消防団 副団長	原 田 仁司 (70)	男
瑞単	北海道	元 斜里地区消防組合 斜里消防団 副団長	松原 憲孝 (74)	男
瑞単	北海道	元 更別消防団 団長	水口 光浩 (65)	男
瑞単	北海道	元 札幌市北消防団 副団長	南 武 (77)	男
瑞単	北海道	元 深川地区消防組合 深川消防団 分団長	村中 輝章 (76)	男
瑞単	北海道	元 苫小牧市消防団 副分団長	元 木 健太郎 (84)	男
瑞単	北海道	元 釧路山田行政組合 江差町消防団 分団長	矢原 嘉和 (81)	男
瑞単	北海道	元 根室市消防団 分団長	矢部 克之 (74)	男
瑞単	北海道	元 北見地区消防組合 留辺蘂消防団 副団長	山下 清登 (71)	男
瑞単	北海道	元 士別地方消防事務 組合士別市消防団 分団長	山下 隆 (76)	男
瑞単	北海道	元 釧路山田行政組合 江差町消防団 分団長	山科 勲夫 (81)	男
瑞単	北海道	元 石狩北部地区消防 事務組合石狩消防 分団長	山本 光正 (71)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	北海道	元 網走地区消防組合 網走消防団 分団長	山本 裕一 (72)	男
瑞単	北海道	元 岩見沢地区消防事 務組合月形消防団 副分団長	米谷 清美 (82)	男
瑞単	北海道	元 稚内地区消防事務 組合狼狽消防団 団長	渡邊 芳美 (72)	男
瑞双	青森県	元 藤崎町消防団 団長	五十嵐 睦三 (71)	男
瑞双	青森県	元 六ヶ所村消防団 団長	久保 誠廣 (76)	男
瑞双	青森県	元 弘前市消防団 団長	熊谷 利一 (71)	男
瑞双	青森県	元 大間町消防団 団長	宮野 成厚 (69)	男
瑞単	青森県	元 八戸市消防団 分団長	磯 島 功 (74)	男
瑞単	青森県	元 中泊町消防団 副団長	長 利 等 (70)	男
瑞単	青森県	元 五所川原市消防団 分団長	小野 博昭 (72)	男
瑞単	青森県	元 六戸町消防団 分団長	高坂 昭 (74)	男
瑞単	青森県	元 青森市青森消防団 分団長	今 正 廣 (75)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	青森県	元 むつ市消防団 分団長	坂 勇 幸三 (72)	男
瑞単	青森県	元 八戸市消防団 分団長	山内 忠康 (75)	男
瑞単	青森県	元 十和田市消防団 副団長	下 佐 賢 悦 (72)	男
瑞単	青森県	元 平内町消防団 分団長	宿野部 兼一 (73)	男
瑞単	青森県	元 青森市浪岡消防団 分団長	須藤 正博 (75)	男
瑞単	青森県	元 弘前市消防団 団長	高橋 和彦 (69)	男
瑞単	青森県	元 野辺地町消防団 副団長	高松 誠 (71)	男
瑞単	青森県	元 田子町消防団 副団長	中村 幸司 (70)	男
瑞単	青森県	元 青森市青森消防団 副団長	中村 久雄 (70)	男
瑞単	青森県	元 つがる市消防団 副団長	原 由 春美 (70)	男
瑞単	青森県	元 新郷村消防団 副団長	福山 義徳 (71)	男
瑞単	青森県	元 平川市消防団 副団長	三上 幹夫 (71)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞双	岩手県	元 久慈市消防団 団長	廣 崎 謙 一 (73)	男
瑞単	岩手県	元 宮古市消防団 副団長	安 倍 主 税 (70)	男
瑞単	岩手県	元 北上市消防団 副団長	阿 部 誠 和 (70)	男
瑞単	岩手県	元 八幡平市消防団 分団長	伊 藤 鉄 男 (73)	男
瑞単	岩手県	元 一関市消防団 副団長	岩 崎 善 嗣 (78)	男
瑞単	岩手県	元 紫波町消防団 副団長	梅 津 孝 二 (73)	男
瑞単	岩手県	元 久慈市消防団 副分団長	大 久 保 廣 高 (75)	男
瑞単	岩手県	元 盛岡市消防団 副団長	大 坪 長 四郎 (77)	男
瑞単	岩手県	元 岩泉町消防団 分団長	嵐 南 優 (77)	男
瑞単	岩手県	元 沢内村消防団 分団長	刈 田 昭 一 (82)	男
瑞単	岩手県	元 遠野市消防団 分団長	菊 池 由 雄 (75)	男
瑞単	岩手県	元 釜石市消防団 分団長	櫻 山 弘 見 (73)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	岩手県	元 奥州市水田区消防団 分団長	小 坂 和 昭 (82)	男
瑞単	岩手県	元 盛岡市消防団 副分団長	佐 久 間 修 一 (73)	男
瑞単	岩手県	元 一関市消防団 分団長	佐々木 定 男 (71)	男
瑞単	岩手県	元 一関市消防団 分団長	佐 藤 善 市 (77)	男
瑞単	岩手県	元 洋野町消防団 分団長	下 平 肇 作 (69)	男
瑞単	岩手県	元 奥州市消防団 副団長	菅 原 徹 (67)	男
瑞単	岩手県	元 平泉町消防団 分団長	菅 原 信 行 (77)	男
瑞単	岩手県	元 金ヶ崎町消防団 副団長	高 橋 新 一 (70)	男
瑞単	岩手県	元 西和賀町消防団 副団長	高 橋 武 勇 (77)	男
瑞単	岩手県	元 八幡平市消防団 分団長	田 村 節 夫 (76)	男
瑞単	岩手県	元 山田町消防団 分団長	中 村 繁 (73)	男
瑞単	岩手県	元 盛岡市消防団 分団長	根 子 繁 三 (80)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	岩手県	元 久慈市消防団 副分団長	木 波 壽 仁 (72)	男
瑞単	岩手県	元 岩手町消防団 分団長	松 原 功 (73)	男
瑞単	岩手県	元 洋野町連合消防団 副分団長	萬 谷 良 一 (81)	男
瑞小	宮城県	元 宮城県仙台市宮城野区 行政事務組合 消防正監	六 戸 克 美 (70)	男
瑞小	宮城県	元 仙台市 消防正監	八 巻 正 之 (70)	男
瑞双	宮城県	元 仙台市泉消防団 団長	赤 曲 信 一 (70)	男
瑞単	宮城県	元 山元町消防団 団長	阿 部 興 喜 (70)	男
瑞単	宮城県	元 涌谷町消防団 分団長	阿 部 稔 (72)	男
瑞単	宮城県	元 仙台市若林消防団 副団長	阿 部 祐 一 (70)	男
瑞単	宮城県	元 栗原市消防団 分団長	石 川 昭 光 (74)	男
瑞単	宮城県	元 加美町消防団 分団長	板 垣 善 一 (76)	男
瑞単	宮城県	元 涌谷町消防団 分団長	伊 藤 晃 (70)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	宮城県	元 登米市消防団 副団長	猪 俣 徳 昭 (71)	男
瑞単	宮城県	元 気仙沼市消防団 分団長	岩 崎 泰 治 (76)	男
瑞単	宮城県	元 丸森町消防団 副団長	太 田 健 一 (70)	男
瑞単	宮城県	元 大崎市消防団 副団長	尾 形 徹 (71)	男
瑞単	宮城県	元 川崎町消防団 分団長	奥 山 方太郎 (77)	男
瑞単	宮城県	元 気仙沼市消防団 副団長	小野寺 淳 (70)	男
瑞単	宮城県	元 栗駒町消防団 分団長	鎌 田 一 郎 (84)	男
瑞単	宮城県	元 仙台市宮城野消防団 団長	川 嶋 松 治 (70)	男
瑞単	宮城県	元 大崎市消防団 分団長	木 村 稔 尚 (77)	男
瑞単	宮城県	元 登米市消防団 副団長	西 條 芳 夫 (70)	男
瑞単	宮城県	元 白石市消防団 副団長	齋 藤 繁 夫 (82)	男
瑞単	宮城県	元 登米市消防団 副団長	佐々木 繁 己 (72)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	宮城県	元 栗原市消防団 分団長	佐 藤 侃 司 (85)	男
瑞単	宮城県	元 利府町消防団 分団長	鈴 木 敬 一 (70)	男
瑞単	宮城県	元 大和町消防団 分団長	鈴 木 清 一 (75)	男
瑞単	宮城県	元 蔵王町消防団 分団長	丹 野 昭 (74)	男
瑞単	宮城県	元 色麻町消防団 副分団長	東 谷 功 (77)	男
瑞単	宮城県	元 大崎市消防団 分団長	中 川 洋一郎 (82)	男
瑞単	宮城県	元 石巻市消防団 分団長	濱 谷 勝 美 (83)	男
瑞単	宮城県	元 仙台市泉消防団 副団長	早 坂 敏 雄 (76)	男
瑞単	宮城県	元 多賀城市消防団 副分団長	門 田 博 之 (85)	男
瑞単	宮城県	元 石巻市消防団 副団長	山 内 孝 弘 (71)	男
瑞単	宮城県	元 仙台市若林消防団 副団長	渡 邊 里 美 (76)	男
瑞単	秋田県	元 湯沢市消防団 副団長	伊 藤 一 (72)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	秋田県	元 湯沢市消防団 分団長	栗 原 養 一 (73)	男
瑞単	秋田県	元 秋田市消防団 分団長	利 部 敏 (74)	男
瑞単	秋田県	元 秋田市消防団 分団長	角 田 茂 (73)	男
瑞単	秋田県	元 潟上市消防団 分団長	菊 地 啓 一 (74)	男
瑞単	秋田県	元 大館市消防団 分団長	北 林 茂 政 (76)	男
瑞単	秋田県	元 大館市消防団 分団長	佐々木 正 (74)	男
瑞単	秋田県	元 横手市山内消防団 分団長	佐々木 謙一郎 (73)	男
瑞単	秋田県	元 男鹿市消防団 分団長	佐 藤 定 久 (74)	男
瑞単	秋田県	元 潟上市消防団 分団長	佐 藤 進 (75)	男
瑞単	秋田県	元 横手市雄物川消防団 分団長	佐 藤 芳 夫 (77)	男
瑞単	秋田県	元 大仙市消防団 副団長	進 藤 文 隆 (70)	男
瑞単	秋田県	元 大仙市消防団 副団長	鈴 木 和 夫 (70)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	秋田県	元 美郷町消防団 分団長	髙橋 智 美 (74)	男
瑞	秋田県	元 横手市横手消防団 分団長	髙橋 藤 七 (77)	男
瑞	秋田県	元 秋田市消防団 分団長	鶴 田 一 成 (73)	男
瑞	秋田県	元 美郷町消防団 分団長	照 井 勇 一 (71)	男
瑞	秋田県	元 能代市消防団 分団長	原 白 昊 徳 (70)	男
瑞	秋田県	元 大館市消防団 副団長	藤 谷 知 義 (71)	男
瑞	秋田県	元 羽後町消防団 分団長	藤 原 博 (76)	男
瑞	秋田県	元 大館市消防団 分団長	木 間 賢 一 (74)	男
瑞	秋田県	元 由利本荘市消防団 分団長	渡 辺 謙 一 (73)	男
瑞	山形県	元 飯豊町消防団 副団長	井 上 和 浩 (65)	男
瑞	山形県	元 大石町消防団 副団長	渡 藤 好 和 (72)	男
瑞	山形県	元 河北町消防団 副団長	太 田 等 (66)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	山形県	元 南陽市消防団 分団長	沖 田 勝 勇 (68)	男
瑞	山形県	元 酒田市消防団 副団長	金 内 直 (65)	男
瑞	山形県	元 小国町消防団 分団長	金 和 彦 (65)	男
瑞	山形県	元 鮭川村消防団 団長	今 田 久 一 (65)	男
瑞	福島県	元 福島市 消防正監	佐 藤 和 彦 (70)	男
瑞	福島県	元 会津若松広域市町村圏整備組合 消防正監	小 田 切 秀 夫 (70)	男
瑞	福島県	元 いわき市消防団 団長	恩 田 泰 行 (78)	男
瑞	福島県	元 会津若松地方広域市町村圏整備組合 消防正監	築 取 正 喜 (70)	男
瑞	福島県	元 会津若松市消防団 分団長	飯 塚 洋 一 (72)	男
瑞	福島県	元 鏡石町消防団 団長	福 田 幸 吉 (69)	男
瑞	福島県	元 川内村消防団 分団長	遠 藤 定 一 (67)	男
瑞	福島県	元 白河市消防団 分団長	若 島 正 信 (66)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	福島県	元 下郷町消防団 副団長	木 村 毅 弘 (64)	男
瑞	福島県	元 郡山市消防団 副団長	日 下 和 彦 (66)	男
瑞	福島県	元 檜雲町消防団 団長	小 栗 金 重 (71)	男
瑞	福島県	元 本宮市消防団 団長	國 分 宏 明 (62)	男
瑞	福島県	元 福島市消防団 分団長	今 野 浩 男 (81)	男
瑞	福島県	元 福島市消防団 分団長	紺 野 保 夫 (77)	男
瑞	福島県	元 相馬市消防団 分団長	佐 藤 博 (69)	男
瑞	福島県	元 南会津町消防団 副団長	佐 藤 洋 一 (70)	男
瑞	福島県	元 いわき市消防団 副団長	藤 本 英 長 (70)	男
瑞	福島県	元 川俣町消防団 副団長	髙橋 泰 司 (69)	男
瑞	福島県	元 西会津町消防団 副団長	田 中 英 喜 (76)	男
瑞	福島県	元 猪苗代町消防団 分団長	田 原 幸 雄 (67)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	福島県	元 郡山市消防団 副団長	橋 本 正 正 (64)	男
瑞	福島県	元 いわき市消防団 部長	松 崎 勇 男 (71)	男
瑞	福島県	元 郡山市消防団 副団長	柳 沼 一郎 (65)	男
瑞	福島県	元 福島市消防団 分団長	油 井 定 信 (80)	男
瑞	茨城県	元 鹿島地方事務組合 消防正監	笠 沼 康 志 (70)	男
瑞	茨城県	元 日立市消防団 副団長	朝 日 雅 好 (73)	男
瑞	茨城県	元 水戸市消防団 分団長	雨 谷 克 巳 (75)	男
瑞	茨城県	元 高萩市消防団 副団長	大 高 忠 (74)	男
瑞	茨城県	元 石岡市消防団 団長	櫻 井 健 (70)	男
瑞	茨城県	元 石岡市消防団 副団長	鈴 木 直 人 (70)	男
瑞	茨城県	元 常総市消防団 副団長	梁 谷 利 男 (73)	男
瑞	茨城県	元 高萩市消防団 副団長	棚 谷 善 廣 (75)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	茨城県	元 内原町消防団 副団長	照 沼 健 一 (76)	男
瑞	茨城県	元 高萩市消防団 副団長	中 村 泰 治 (67)	男
瑞	栃木県	元 佐野市消防団 副団長	五十 部 正 (71)	男
瑞	栃木県	元 日光市足尾消防団 団長	尾 崎 哲 夫 (72)	男
瑞	栃木県	元 宇都宮市消防団 分団長	櫻 井 正 康 (72)	男
瑞	栃木県	元 真岡市消防団 団長	福 村 新 一 郎 (71)	男
瑞	栃木県	元 那須塩原市塩原消防団 団長	藤 田 季 一 (72)	男
瑞	栃木県	元 下野市消防団 副団長	元 木 幸 一 (71)	男
瑞	栃木県	元 日光市足尾消防団 副団長	山 添 義 明 (72)	男
瑞	群馬県	元 嬬恋消防団 団長	熊 川 美 朗 (65)	男
瑞	群馬県	元 下仁田町消防団 団長	神 戸 淳 (64)	男
瑞	群馬県	元 南牧村消防団 団長	佐 藤 昌 行 (65)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	群馬県	元 高崎市消防団 副団長	中 里 萌 義 (70)	男
瑞	群馬県	元 安中市消防団 団長	萩 原 哲 也 (64)	男
瑞	埼玉県	元 川口市 消防正監	櫻 本 和 夫 (70)	男
瑞	埼玉県	元 上尾市 消防正監	加 藤 一 美 (70)	男
瑞	埼玉県	元 児玉郡市広域市町村圏 消防正監	中 野 裕 夫 (70)	男
瑞	埼玉県	元 さいたま市 消防正監	原 善 次 郎 (72)	男
瑞	埼玉県	元 草加市消防団 団長	青 木 慎 平 (71)	男
瑞	埼玉県	元 秩父市消防団 副団長	浅 見 茂 男 (67)	男
瑞	埼玉県	元 鴻巣市消防団 分団長	新 井 康 夫 (71)	男
瑞	埼玉県	元 埼玉西部広域事務 組合飯能消防団 団長	金 子 堅 造 (81)	男
瑞	埼玉県	元 さいたま市消防団 副団長	小 島 民 男 (81)	男
瑞	埼玉県	元 春日部市春日部消防 団分団長	関 根 常 雄 (73)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	埼玉県	元志木市消防団 分団長	由中 修司 (66)	男
瑞単	埼玉県	元蕨市消防団 分団長	寺尾 紀彦 (68)	男
瑞単	埼玉県	元行田市消防団 団長	戸ヶ崎 武 (69)	男
瑞単	埼玉県	元久喜市鷺宮消防団 団長	長谷川 智英 (67)	男
瑞単	埼玉県	元川口市消防団 分団長	草 巖 明 (74)	男
瑞単	埼玉県	元越谷市消防団 副団長	森 田 定雄 (70)	男
瑞単	埼玉県	元所沢市消防団 副団長	安 田 稔夫 (65)	男
瑞小	千葉県	元佐倉市八街市酒々井町消防組合 消防正監	今井 定男 (70)	男
瑞小	千葉県	元山武郡市広域行政 組合消防正監	神 田 信 明 (70)	男
瑞双	千葉県	元香取広域市町村圏 事務組合消防正監	中 田 隆 肇 (71)	男
瑞単	千葉県	元千葉市消防団 分団長	秋 元 静 (72)	男
瑞単	千葉県	元流山市消防団 分団長	秋 元 浩 (64)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	千葉県	元市川市消防団 副団長	榎本 敏良 (68)	男
瑞単	千葉県	元栄町消防団 分団長	加藤 明德 (64)	男
瑞単	千葉県	元南房総市消防団 団長	木村 庸一 (64)	男
瑞単	千葉県	元大多喜町消防団 団長	齋藤 信一 (66)	男
瑞単	千葉県	元船橋市消防団 副団長	浜 登 由紀雄 (66)	男
瑞単	千葉県	元九十九里町消防団 副団長	鈴木 啓司 (65)	男
瑞単	千葉県	元四街道市消防団 分団長	山崎 勝美 (67)	男
瑞単	千葉県	元木更津市消防団 団長	地 曳 貞 夫 (64)	男
瑞単	千葉県	元山武市消防団 団長	山 本 稔 (66)	男
瑞小	東京都	元東京消防庁 消防司監	藤 藤 和 文 (70)	男
瑞小	東京都	元東京消防庁 消防司監	徳 留 壽 一 (70)	男
瑞小	東京都	元東京消防庁 消防司監	中 澤 一 彦 (70)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞双	東京都	元小笠原村消防団 団長	赤 石 一 昌 (78)	男
瑞双	東京都	元日本堤消防団 団長	若 原 英 一 (75)	男
瑞双	東京都	元深川消防団 団長	田 口 賢 治 (74)	男
瑞双	東京都	元町田市消防団 団長	吉 川 和 男 (67)	男
瑞双	東京都	元玉川消防団 団長	渡 邊 章 (78)	男
瑞単	東京都	元三宅村消防団 副団長	浅 沼 注 (78)	男
瑞単	東京都	元豊島消防団 分団長	阿 部 一 馬 (81)	男
瑞単	東京都	元金町消防団 副団長	石 川 善一郎 (77)	男
瑞単	東京都	元荻窪消防団 副団長	大 澤 義 光 (75)	男
瑞単	東京都	元世田谷消防団 副団長	大 滝 紀 夫 (76)	男
瑞単	東京都	元調布市消防団 団長	小 津 浩 彦 (65)	男
瑞単	東京都	元奥多摩町消防団 団長	勝 山 一 夫 (63)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	東京都	元杉並消防団 副団長	金子 文彦 (74)	男
瑞単	東京都	元日の出町消防団 団長	清水 保 久 (59)	男
瑞単	東京都	元新宿消防団 分団長	杉 本 雅 晴 (88)	男
瑞単	東京都	元中野消防団 副団長	杉 山 友 治 (74)	男
瑞単	東京都	元あきる野市消防団 団長	鈴木 盛 哉 (58)	男
瑞単	東京都	元瑞穂町消防団 団長	関 根 輝 明 (59)	男
瑞単	東京都	元大森消防団 団長	高 井 信太郎 (77)	男
瑞単	東京都	元武蔵村山市消防団 団長	高 橋 勇 治 (67)	男
瑞単	東京都	元田沼調布消防団 副団長	眞 井 精一郎 (78)	男
瑞単	東京都	元日野市消防団 副団長	馬 場 一 衛 (82)	男
瑞単	東京都	元小岩消防団 副団長	羽 原 英 雄 (82)	男
瑞単	東京都	元江戸川消防団 副団長	平 田 光 男 (72)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	東京都	元板橋消防団 副団長	松 岡 次 郎 (75)	男
瑞単	東京都	元品川消防団 副団長	山口 裕 一 (76)	男
瑞単	東京都	元向島消防団 副団長	吉 澤 由 勝 (75)	男
瑞小	神奈川県	元横浜市 消防正監	阿 部 隆 (71)	男
瑞小	神奈川県	元横浜市 消防正監	小 野 和 夫 (71)	男
瑞双	神奈川県	元藤沢市消防団 団長	西 山 幸 成 (71)	男
瑞単	神奈川県	元大和市消防団 分団長	井 上 誠 (70)	男
瑞単	神奈川県	元横浜磯子消防団 団長	大須賀 節 夫 (73)	男
瑞単	神奈川県	元山北町消防団 分団長	木 川 修 一 (72)	男
瑞単	神奈川県	元秦野市消防団 分団長	小 泉 加 寿 彦 (69)	男
瑞単	神奈川県	元平塚市消防団 副団長	後 藤 昌 司 (70)	男
瑞単	神奈川県	元相模原市消防団 副団長	中 里 稔 (67)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	神奈川県	元平塚市消防団 副団長	二 宮 光 正 (68)	男
瑞単	神奈川県	元川崎市麻生消防団 団長	土 方 茂 (70)	男
瑞単	神奈川県	元横浜市都英消防団 団長	菅 川 善 康 (71)	男
瑞単	神奈川県	元逗子市消防団 分団長	村 松 周 次 (75)	男
瑞単	神奈川県	元横浜市港南消防団 団長	森 正 夫 (72)	男
瑞単	神奈川県	元横浜須賀市消防団 分団長	森 川 久 (72)	男
瑞単	新潟県	元上越市消防団 副団長	飯 田 敏 郎 (67)	男
瑞単	新潟県	元柏崎市消防団 分団長	池 田 修 雄 (70)	男
瑞単	新潟県	元新発田市消防団 副分団長	今 田 廣 見 (76)	男
瑞単	新潟県	元村上市消防団 団長	大 竹 憲 一 (65)	男
瑞単	新潟県	元新潟市消防団 副団長	桑 原 久 満 (65)	男
瑞単	新潟県	元新潟市消防団 副団長	佐 藤 勇 (67)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	新潟県	元 上越市消防団 副分団長	原 山 登 (76)	男
瑞	新潟県	元 湯沢町消防団 副団長	高 井 宏 行 (67)	男
瑞	新潟県	元 加茂市消防団 分団長	鶴 巻 喜久雄 (77)	男
瑞	新潟県	元 小千谷市消防団 団長	富 井 正 志 (65)	男
瑞	新潟県	元 新潟市消防団 副分団長	長 井 誠 雄 (77)	男
瑞	新潟県	元 魚沼市消防団 団長	中 村 正 克 (66)	男
瑞	新潟県	元 津南町消防団 分団長	平 井 敬 二 (76)	男
瑞	新潟県	元 佐渡市南佐渡消防団 副団長	藤 井 正 一 (76)	男
瑞	新潟県	元 長岡市三島消防団 団長	元 井 寿 康 (65)	男
瑞	新潟県	元 阿賀野市消防団 分団長	山 崎 和 幸 (66)	男
瑞	小宮山県	元 高岡市 消防正監	佐 道 寛 (70)	男
瑞	富山県	元 高岡市消防団 分団長	荒 井 復 六 (81)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	富山県	元 小矢部市消防団 分団長	石 黒 正 博 (72)	男
瑞	富山県	元 入善町消防団 分団長	登 原 正 夫 (78)	男
瑞	富山県	元 南砺市消防団 副団長	嶋 田 健 治 (77)	男
瑞	富山県	元 富山市消防団 副団長	高 野 誠 一 (78)	男
瑞	富山県	元 高岡市伏木消防団 副分団長	谷 井 晴 夫 (84)	男
瑞	富山県	元 富山市消防団 副団長	中 村 入 司 (67)	男
瑞	富山県	元 射水市消防団 分団長	野 田 進 (75)	男
瑞	富山県	元 射水市消防団 分団長	坂 東 昭 (76)	男
瑞	富山県	元 魚津市消防団 分団長	廣 瀬 次 雄 (78)	男
瑞	富山県	元 富山市消防団 副団長	藤 井 実 (73)	男
瑞	富山県	元 高岡市消防団 分団長	矢 富 政 男 (79)	男
瑞	石川県	元 金沢市第一消防団 分団長	池 田 松 男 (70)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	石川県	元 羽咋市消防団 副団長	坂 野 保 正 (70)	男
瑞	石川県	元 野々市市消防団 団長	中 野 隆 信 (72)	男
瑞	石川県	元 七尾市第1消防団 副団長	林 義 昭 (73)	男
瑞	石川県	元 小松市消防団 副団長	山下 利 樹 (71)	男
瑞	福井県	元 鯖江・丹生消防組合越前消防団 副団長	氏 家 鉄 也 (61)	男
瑞	福井県	元 南越消防組合越前市消防団 副団長	辻 岡 章 (72)	男
瑞	福井県	元 鯖江・丹生消防組合越前消防団 分団長	橋 爪 伸 治 (66)	男
瑞	福井県	元 勝山市消防団 分団長	林 照 郎 (66)	男
瑞	山梨県	元 丹波山村消防団 団長	橋 詰 昭 人 (66)	男
瑞	山梨県	元 道志村消防団 団長	池 谷 勝 (67)	男
瑞	山梨県	元 小菅村消防団 団長	奥 秋 正 次 (71)	男
瑞	山梨県	元 上野原市消防団 副団長	小林 一 夫 (67)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	山梨県	元 甲府市消防団 分団長	戸 澤 一 (71)	男
瑞	山梨県	元 身延町消防団 副団長	深 澤 香 (70)	男
瑞	長野県	元 諏訪広域連合 消防正監	佐 久 卓 (70)	男
瑞	長野県	元 長野市消防団 分団長	清水 宗 (61)	男
瑞	長野県	元 松本市消防団 分団長	志 地 祐 一 (61)	男
瑞	長野県	元 木曾町消防団 副団長	古 坂 貴 幸 (60)	男
瑞	長野県	元 長野市消防団 分団長	森 茂 幸 (66)	男
瑞	長野県	元 長野市消防団 分団長	和 田 幸 文 (61)	男
瑞	岐阜県	元 川辺町消防団 団長	佐 賀 正 己 (70)	男
瑞	岐阜県	元 本巣市消防団 副団長	宇 野 紀 一 (64)	男
瑞	岐阜県	元 高山市消防団 分団長	小 澤 米 光 (77)	男
瑞	岐阜県	元 中津川市消防団 副団長	佐 藤 貢 人 (66)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	岐阜県	元 岐阜市北消防団 副団長	下 川 敏 彦 (71)	男
瑞	静岡県	元 浜松市 消防正監	伊 藤 彰 則 (70)	男
瑞	静岡県	元 富士市 消防正監	後 藤 義 明 (70)	男
瑞	静岡県	元 静岡市消防団 副団長	岩 城 孝 也 (68)	男
瑞	静岡県	元 静岡市消防団 副団長	小 笠 原 持 晃 (67)	男
瑞	静岡県	元 三島市消防団 副分団長	柏 崎 哲 徳 (65)	男
瑞	静岡県	元 富士市消防団 副団長	船 山 一 敏 (68)	男
瑞	静岡県	元 熱海市消防団 副団長	湯 山 一 高 (67)	男
瑞	静岡県	元 富士市消防団 分団長	渡 邊 三 郎 (69)	男
瑞	小愛知県	元 名古屋市 消防正監	加 納 利 昭 (70)	男
瑞	小愛知県	元 岡崎市 消防正監	原 田 幸 夫 (70)	男
瑞	三重県	元 大日町消防団 団長	酒 井 孝 (70)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞	愛知県	元 知多市消防団 団長	泉 章 人 (70)	男
瑞	愛知県	元 名古屋市則武消防団 団長	加 藤 幸 雄 (77)	男
瑞	愛知県	元 名古屋市前山消防団 団長	加 藤 幸 廣 (76)	男
瑞	愛知県	元 岡崎市広幡消防団 団長	小 芦 尚 久 (69)	男
瑞	愛知県	元 名古屋市田代消防団 団長	杉 山 信 太郎 (78)	男
瑞	愛知県	元 名古屋市森孝東消防団 団長	森 下 和 良 (75)	男
瑞	三重県	元 四日市市消防団 団長	伊 藤 忠 夫 (76)	男
瑞	三重県	元 鈴鹿市消防団 分団長	飯 田 秀 治 (70)	男
瑞	三重県	元 津市消防団 分団長	小 川 幹 夫 (72)	男
瑞	三重県	元 四日市市消防団 分団長	坂 倉 次 雄 (74)	男
瑞	三重県	元 桑名市消防団 分団長	鈴 木 健 一 (65)	男
瑞	三重県	元 明知市消防団 副団長	辻 良 久 (65)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	三重県	元 桑名市消防団 分団長	中久木 謙二 (71)	男
瑞単	三重県	元 久居市消防団 団長	西村 清幸 (81)	男
瑞小	滋賀県	元 東近江行政組合 消防正監	大橋 善之 (70)	男
瑞双	滋賀県	元 近江八幡市消防団 団長	中田 幸雄 (74)	男
瑞単	滋賀県	元 彦根市消防団 副団長	関 新一郎 (66)	男
瑞単	滋賀県	元 大津市消防団 副団長	寺田 敏 (69)	男
瑞単	滋賀県	元 高島市消防団 副団長	庭川 清治 (69)	男
瑞単	滋賀県	元 甲賀市消防団 団長	増木 嘉彦 (68)	男
瑞小	京都府	元 宇治市 消防正監	関 井 良 弘 (70)	男
瑞小	京都府	元 京都市 消防正監	高木 正弘 (70)	男
瑞双	京都府	元 京都市中京消防団 副団長	中嶋 邦彦 (70)	男
瑞単	京都府	元 南丹市消防団 副団長	芦田 茂 (64)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	京都府	元 京都市中京消防団 副団長	井 原 敬 次 (70)	男
瑞単	京都府	元 京都市西京消防団 副団長	大八木 清 (77)	男
瑞単	京都府	元 京都市北消防団 副団長	高木 晴光 (76)	男
瑞単	京都府	元 京都市伏見消防団 副団長	藤野 幸治 (78)	男
瑞単	京都府	元 舞鶴市東大浦消防団 副団長	山 田 浩 (67)	男
瑞小	大阪府	元 高槻市 消防正監	奥 田 晃 (70)	男
瑞小	大阪府	元 大阪市 消防正監	後藤 知哉 (70)	男
瑞小	大阪府	元 大阪市 消防正監	志手 隆之 (70)	男
瑞双	大阪府	元 枚方市消防団 団長	上 山 啓 真 (70)	男
瑞単	大阪府	元 高槻市消防団 副団長	石 田 義 光 (72)	男
瑞単	大阪府	元 阪南市消防団 分団長	石 橋 正 光 (72)	男
瑞単	大阪府	元 吹田市消防団 副団長	桶 浦 良 成 (72)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	大阪府	元 河内長野市消防団 副団長	倉 塚 勇 治 (79)	男
瑞単	大阪府	元 摂津市消防団 分団長	黒 田 彰 (78)	男
瑞単	大阪府	元 泉佐野市消防団 分団長	西 浦 正 弘 (72)	男
瑞単	大阪府	元 茨木市消防団 分団長	東 浦 忠 司 (74)	男
瑞単	大阪府	元 貝塚市消防団 副団長	百 野 武 士 (74)	男
瑞単	大阪府	元 豊中市消防団 副団長	木 田 毅 和 (66)	男
瑞小	兵庫県	元 北はりま消防組合 消防正監	石 古 寛 (70)	男
瑞双	兵庫県	元 淡路市消防団 団長	曾 谷 哲 也 (65)	男
瑞双	兵庫県	元 加西市消防団 団長	深 山 哲 也 (67)	男
瑞双	兵庫県	元 神戸市須磨消防団 団長	鷲 尾 庄 司 (74)	男
瑞単	兵庫県	元 姫路市姫路東消防団 分団長	加 藤 薫 (76)	男
瑞単	兵庫県	元 加古川市消防団 分団長	野 木 章 夫 (65)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	兵庫県	元 尼崎市消防団 分団長	田 中 壽 治 (78)	男
瑞単	兵庫県	元 尼崎市消防団 分団長	福 井 隆 (77)	男
瑞単	兵庫県	元 猪名川町消防団 団長	前 岡 隆 顕 (67)	男
瑞単	兵庫県	元 朝来市消防団 副団長	増 田 博 (73)	男
瑞単	兵庫県	元 太子町消防団 副団長	森 崎 啓 吉 (64)	男
瑞単	兵庫県	元 佐用町消防団 副団長	森 本 孝 吉 (71)	男
瑞単	兵庫県	元 宍粟市消防団 団長	安 原 勝 則 (70)	男
瑞単	奈良県	元 川西町消防団 団長	小 澤 邦 男 (70)	男
瑞単	奈良県	元 天理市消防団 団長	北 澤 正 巳 (70)	男
瑞単	奈良県	元 曾爾村消防団 団長	北 富 達 也 (64)	男
瑞単	奈良県	元 大和郡山市消防団 副団長	辻 内 章 浩 (70)	男
瑞単	奈良県	元 御所市消防団 分団長	中山 廣 信 (78)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	奈良県	元 下北山村消防団 団長	浦 岡 道 則 (73)	男
瑞単	奈良県	元 斑鳩町消防団 団長	西 谷 喜 代 嗣 (70)	男
瑞単	奈良県	元 広陵町消防団 団長	堀 内 信 幸 (70)	男
瑞単	奈良県	元 上牧町消防団 分団長	矢 野 雄 幸 (77)	男
瑞単	和歌山県	元 白浜町消防団 分団長	石 橋 義 史 (75)	男
瑞単	和歌山県	元 橋本市消防団 副団長	尾 岡 進 (75)	男
瑞単	和歌山県	元 海南市消防団 分団長	辻 健 次 (75)	男
瑞単	和歌山県	元 新宮市消防団 分団長	寺 田 正 徳 (69)	男
瑞単	和歌山県	元 紀美野町消防団 分団長	前 谷 典 利 (67)	男
瑞単	和歌山県	元 有田市消防団 副団長	山 崎 芳 彦 (69)	男
瑞単	鳥取県	元 米子市消防団 分団長	長 門 衛 (79)	男
瑞単	鳥取県	元 倉吉市消防団 副団長	福 田 素 己 (79)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	鳥取県	元 国府町消防団 分団長	森 原 勤 司 (73)	男
瑞単	鳥取県	元 倉吉市消防団 分団長	米 田 歳 幸 (67)	男
瑞単	鳥取県	元 浜田市消防団 副団長	砂 田 利 文 (72)	男
瑞単	鳥取県	元 出雲市消防団 分団長	田 中 眞 一 (76)	男
瑞単	鳥取県	元 益田市消防団 副団長	中 岡 勝 史 (71)	男
瑞単	鳥取県	元 安来市消防団 分団長	細 田 宗 吾 (65)	男
瑞単	鳥取県	元 大田市消防団 副団長	松 浦 裕 (72)	男
瑞単	鳥取県	元 浜田市消防団 分団長	三 浦 幸 則 (78)	男
瑞単	鳥取県	元 大田市消防団 副団長	森 山 元 樹 (72)	男
瑞小	岡山県	元 倉敷市 消防正監	秋 葉 桂 樹 (70)	男
瑞小	岡山県	元 岡山市 消防正監	西山 稔 (70)	男
瑞単	岡山県	元 倉敷市消防団 分団長	池 上 基 晴 (64)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	岡山県	元 真庭市消防団 副団長	上原 敏弘 (64)	男
瑞単	岡山県	元 玉野市消防団 分団長	太田 通雄 (70)	男
瑞単	岡山県	元 笠岡市消防団 副団長	笠原 一行 (64)	男
瑞単	岡山県	元 津山市消防団 副団長	高山 和志 (72)	男
瑞単	岡山県	元 井原市消防団 分団長	山中 昭治 (75)	男
瑞単	岡山県	元 高梁市消防団 分団長	綱島 正司 (64)	男
瑞単	岡山県	元 倉敷市消防団 分団長	富水 勝 (74)	男
瑞単	岡山県	元 岡山市消防団 分団長	仁科 行治 (70)	男
瑞単	岡山県	元 笠岡市消防団 分団長	正清 三三 (64)	男
瑞単	岡山県	元 新見市消防団 分団長	松本 泰治 (64)	男
瑞単	岡山県	元 井原市消防団 分団長	丸山 一徳 (78)	男
瑞単	岡山県	元 玉野市消防団 分団長	丸山 慎爾 (64)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	岡山県	元 久米南町消防団 副団長	森崎 文一 (64)	男
瑞双	広島県	元 広島市 消防正監	山田 哲郎 (70)	男
瑞単	広島県	元 広島市西消防団 分団長	有富 輝明 (74)	男
瑞単	広島県	元 福山市消防団 分団長	上川 健一 (70)	男
瑞単	広島県	元 廿日市市消防団 分団長	江崎 秀夫 (76)	男
瑞単	広島県	元 庄原市消防団 副団長	岡川 順次 (70)	男
瑞単	広島県	元 広島市安佐南消防団 分団長	沖博 之 (77)	男
瑞単	広島県	元 大竹市消防団 分団長	角 光彦 (70)	男
瑞単	広島県	元 広島市西消防団 分団長	巖谷山 正照 (74)	男
瑞単	広島県	元 三次市消防団 副分団長	木村 壽宏 (72)	男
瑞単	広島県	元 安芸太田町消防団 分団長	河野 正文 (70)	男
瑞単	広島県	元 神石高原町消防団 副団長	米山 正 (70)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	広島県	元 三原市消防団 副団長	近藤 茂樹 (70)	男
瑞単	広島県	元 府中町消防団 団長	藤渡 謙次 (76)	男
瑞単	広島県	元 江田島市消防団 副団長	住岡 浩 (71)	男
瑞単	広島県	元 呉市消防団 副団長	田中 敏夫 (70)	男
瑞単	広島県	元 福山市消防団 分団長	土居 誠 (70)	男
瑞単	広島県	元 広島市安佐南消防団 副団長	富吉 靖信 (70)	男
瑞単	広島県	元 江田島市消防団 分団長	中常 征治 (81)	男
瑞単	広島県	元 東広島市消防団 分団長	西原 正章 (73)	男
瑞単	広島県	元 呉市消防団 副団長	藤 博幸 (70)	男
瑞単	広島県	元 東広島市消防団 副団長	阿井 龍男 (70)	男
瑞単	広島県	元 三原市消防団 分団長	森川 実夫 (71)	男
瑞単	広島県	元 福山市消防団 分団長	矢田 昌明 (70)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	広島県	元 安芸高田市消防団 副団長	山縣 正三 (72)	男
瑞単	広島県	元 呉市消防団 副団長	山崎 礼三 (70)	男
瑞双	山口県	元 光市消防団 団長	小西 輝保 (80)	男
瑞双	山口県	元 長門市消防団 団長	森 孝彰 (68)	男
瑞単	山口県	元 萩市消防団 分団長	磯部 一義 (75)	男
瑞単	山口県	元 山口市消防団 分団長	大田 剛 (72)	男
瑞単	山口県	元 萩市消防団 分団長	鳥田 茂夫 (74)	男
瑞単	山口県	元 岩国市消防団 分団長	川上 實 (74)	男
瑞単	山口県	元 山口市消防団 分団長	高木 信明 (74)	男
瑞単	山口県	元 美祿市消防団 分団長	高橋 英雄 (69)	男
瑞単	山口県	元 光市消防団 分団長	竹本 弘 (72)	男
瑞単	山口県	元 下松市消防団 副団長	田村 秀之 (70)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	山口県	元 宇部市消防団 分団長	中村 昭一 (64)	男
瑞単	山口県	元 光市消防団 副団長	原田 正二 (66)	男
瑞単	山口県	元 周南市消防団 分団長	廣長 満 (68)	男
瑞単	山口県	元 萩市消防団 分団長	松尾 賢次 (75)	男
瑞単	山口県	元 防府市消防団 団長	三原 久也 (70)	男
瑞単	山口県	元 岩国市消防団 分団長	山本 昭生 (72)	男
瑞単	山口県	元 宇部市消防団 分団長	山本 洋一 (73)	男
瑞単	山口県	元 防府市消防団 分団長	吉村 孝人 (67)	男
瑞単	山口県	元 下関市消防団 分団長	吉母 健治 (68)	男
瑞小	徳島県	元 徳島市 消防正監	岡田 蘭彦 (70)	男
瑞単	徳島県	元 美波町消防団 副団長	森本 有徳 (69)	男
瑞単	徳島県	元 阿南市消防団 副団長	森本 正明 (65)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	徳島県	元 阿波市消防団 団長	吉岡 孝好 (66)	男
瑞単	香川県	元 多度津町消防団 副団長	石川 雄平 (70)	男
瑞単	香川県	元 観音寺市消防団 分団長	泉宮 祥保 (71)	男
瑞単	香川県	元 三豊市消防団 副団長	若井 厚憲 (72)	男
瑞単	香川県	元 高松市消防団 分団長	寒川 茂 (79)	男
瑞単	香川県	元 高松市消防団 分団長	前 光廣 (66)	男
瑞単	香川県	元 直島町消防団 副団長	手塚 浩 (66)	男
瑞単	香川県	元 高松市消防団 分団長	中井 一郎 (76)	男
瑞単	香川県	元 観音寺市消防団 分団長	西山 宏之 (68)	男
瑞単	香川県	元 宇多津町消防団 分団長	藤原 肇一 (70)	男
瑞単	香川県	元 坂出市消防団 分団長	前田 昌治 (71)	男
瑞単	香川県	元 三豊市消防団 分団長	磯 満保 (77)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	愛媛県	元 新居浜市消防団 分団長	伊藤 博 (74)	男
瑞単	愛媛県	元 愛南町消防団 副団長	小松 好 (65)	男
瑞単	愛媛県	元 宇和島市消防団 副団長	高田 喜樹 (65)	男
瑞単	愛媛県	元 大三島町消防団 分団長	藤原 一夫 (65)	男
瑞単	愛媛県	元 松山市消防団 分団長	森 恵 純 (67)	男
瑞単	愛媛県	元 今治市消防団 副団長	村上 史 丈 (66)	男
瑞単	愛媛県	元 東温市消防団 分団長	八 塚 俊 明 (67)	男
瑞単	愛媛県	元 松山市消防団 副団長	山 田 久 雄 (65)	男
瑞単	愛媛県	元 伊方町消防団 団長	吉 由 謙 治 (65)	男
瑞単	愛媛県	元 四国中央市消防団 副団長	渡 邊 勇 (69)	男
瑞単	愛媛県	元 今治市消防団 団長	渡 部 純 三 (66)	男
瑞小	高知県	元 高知市 消防正監	浦 原 利 明 (70)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	高知県	元 高知市消防団 副団長	大 黒 翼 世 (78)	男
瑞単	高知県	元 高幡消防組合中土 佐消防団 分団長	黒 原 美 一 (76)	男
瑞単	高知県	元 室戸市消防団 分団長	後 藤 弘 道 (64)	男
瑞単	高知県	元 高幡消防組合梛原 消防団 分団長	神 明 司 (65)	男
瑞単	高知県	元 南国市消防団 分団長	高 芝 謙 (75)	男
瑞単	高知県	元 本山町消防団 団長	高 橋 春 吉 (71)	男
瑞単	高知県	元 高幡消防組合津野 消防団 副団長	山 中 延 行 (72)	男
瑞単	高知県	元 高幡消防組合須崎 消防団 団長	山 崎 明 (71)	男
瑞単	高知県	元 高幡消防組合四万 十消防団 副団長	山 中 嗣 雄 (65)	男
瑞単	高知県	元 四万十市消防団 分団長	吉 本 洋 (81)	男
瑞小	福岡県	元 久留米広城市町村 團事務組合 消防正監	福 田 義 宣 (70)	男
瑞双	福岡県	元 飯塚地区消防組合 消防正監	長 野 文 彦 (70)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	福岡県	元 福岡市早良消防団 分団長	向 部 重 光 (73)	男
瑞単	福岡県	元 北九州市若松消防 分団長	荒 牧 繁 (73)	男
瑞単	福岡県	元 添田町消防団 分団長	市 野 正 人 (74)	男
瑞単	福岡県	元 みやこ町消防団 分団長	大 塚 道 正 (76)	男
瑞単	福岡県	元 大刀洗町消防団 団長	大 場 雅 之 (70)	男
瑞単	福岡県	元 嘉麻市消防団 分団長	梶 原 徳 幸 (73)	男
瑞単	福岡県	元 川崎町消防団 分団長	河 崎 順 一 (69)	男
瑞単	福岡県	元 飯塚市消防団 分団長	國 丸 洋 一 (77)	男
瑞単	福岡県	元 大牟田市消防団 分団長	齊 藤 敏 博 (69)	男
瑞単	福岡県	元 上毛町消防団 副団長	専 光 寺 渡 (64)	男
瑞単	福岡県	元 直方市消防団 分団長	伊 達 博 志 (65)	男
瑞単	福岡県	元 香春町消防団 分団長	谷 本 一 宏 (67)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	福岡県	元 福岡市東消防団 分団長	中 村 祐 二 (71)	男
瑞単	福岡県	元 川崎町消防団 分団長	鍋 藤 謙 隆 (77)	男
瑞単	福岡県	元 豊前市消防団 分団長	平 木 一 洋 (74)	男
瑞単	福岡県	元 赤村消防団 分団長	松 代 忍 (74)	男
瑞単	福岡県	元 豊前市消防団 分団長	宮 本 隼 (74)	男
瑞単	福岡県	元 筑紫野市消防団 副団長	山 崎 幹 彦 (63)	男
瑞双	佐賀県	元 杵森地区広城市町 村團組合 消防正監	一ノ瀬 敏 夫 (70)	男
瑞双	佐賀県	元 基山町消防団 団長	内 山 哲 夫 (71)	男
瑞単	佐賀県	元 佐賀市消防団 分団長	木 塚 文 雄 (87)	男
瑞単	佐賀県	元 佐賀市消防団 分団長	久 米 勝 博 (76)	男
瑞単	佐賀県	元 武雄市消防団 分団長	下 平 修 三 (71)	男
瑞単	佐賀県	元 佐賀市消防団 副分団長	庄 野 正 明 (77)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	佐賀県	元 唐津市消防団 分団長	早 田 善 徳 (73)	男
瑞小	長崎県	元 佐世保市 消防正監	伊 東 次 雄 (70)	男
瑞単	長崎県	元 佐世保市消防団 分団長	綾 香 善 治 郎 (75)	男
瑞単	長崎県	元 勝本町消防団 分団長	香 椎 憲 正 (78)	男
瑞単	長崎県	元 松浦市消防団 団長	志 水 正 信 (65)	男
瑞単	長崎県	元 江迎町消防団 副団長	田 尻 博 逸 (74)	男
瑞単	長崎県	元 新上五島町消防団 分団長	水 田 敏 明 (75)	男
瑞単	長崎県	元 新上五島町消防団 副団長	中 山 利 三 (67)	男
瑞単	長崎県	元 長崎市消防団 副団長	西 文 雄 (70)	男
瑞単	長崎県	元 雲仙市消防団 副団長	前 田 悟 (66)	男
瑞単	長崎県	元 諫早市消防団 副団長	松 尾 明 人 (65)	男
瑞単	長崎県	元 長崎市消防団 分団長	松 村 栄 栄 (77)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	長崎県	元 五島市消防団 副団長	松 本 和 哉 (68)	男
瑞単	長崎県	元 佐世保市消防団 分団長	溝 上 和 正 (76)	男
瑞単	長崎県	元 長崎市消防団 副団長	山 口 公 明 (72)	男
瑞単	長崎県	元 新上五島町消防団 副団長	吉 川 孝 明 (70)	男
瑞双	熊本県	元 熊本市 消防司監	西 山 博 之 (70)	男
瑞双	熊本県	元 八代市消防団 団長	山 本 一 樹 (72)	男
瑞単	熊本県	元 阿蘇市消防団 副団長	加 藤 雄 二 (65)	男
瑞単	熊本県	元 球磨村消防団 団長	黄 葉 吳 一 (72)	男
瑞単	熊本県	元 八代市消防団 副分団長	久 森 善 勝 (74)	男
瑞単	熊本県	元 熊本市消防団 分団長	小 嶋 栄 治 (72)	男
瑞単	熊本県	元 津奈木町消防団 副団長	佐々木 茂 喜 (64)	男
瑞単	熊本県	元 菊池市消防団 副団長	信 岡 高 登 志 (64)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	熊本県	元 長洲町消防団 副団長	馬 場 勝 (64)	男
瑞単	熊本県	元 天草市消防団 副団長	舩 本 幸 喜 (64)	男
瑞単	熊本県	元 熊本市消防団 副分団長	村 上 隆 也 (86)	男
瑞単	熊本県	元 苓北町消防団 副団長	村 上 勉 (66)	男
瑞小	大分県	元 大分市 消防正監	奈 良 浩 二 (70)	男
瑞双	大分県	元 佐伯市宇目消防団 団長	市 川 寿 一 (66)	男
瑞単	大分県	元 豊後大野市消防団 副団長	麻 生 秀 次 (66)	男
瑞単	大分県	元 日田市消防団 副団長	石 井 吉 人 (67)	男
瑞単	大分県	元 大分市消防団 分団長	岩 崎 恭 生 (71)	男
瑞単	大分県	元 臼杵市消防団 分団長	岑 井 克 之 (66)	男
瑞単	大分県	元 豊後大野市消防団 副団長	加 藤 俊 範 (66)	男
瑞単	大分県	元 中津市消防団 副団長	北 村 正 美 (67)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	大分県	元 宇佐市消防団 分団長	行 徳 憲 己 (69)	男
瑞単	大分県	元 杵築市消防団 副団長	草 野 修 智 (72)	男
瑞単	大分県	元 由布市消防団 副団長	後 藤 勝 己 (76)	男
瑞単	大分県	元 中津市消防団 副団長	竹 本 富 喜 (71)	男
瑞単	大分県	元 大分市消防団 分団長	中 原 憲 夫 (74)	男
瑞単	大分県	元 別府市消防団 副分団長	久 藤 孝 憲 (75)	男
瑞単	宮崎県	元 日向市消防団 副団長	河 埜 幸 次 (65)	男
瑞単	宮崎県	元 串間市消防団 分団長	久 保 田 俊 一 (70)	男
瑞単	宮崎県	元 西都市消防団 分団長	瀧 井 康 規 (71)	男
瑞単	宮崎県	元 都城市消防団 副団長	福 留 孝 次 (72)	男
瑞単	宮崎県	元 宮崎市消防団 副団長	山 口 和 明 (65)	男
瑞単	鹿児島県	元 垂水市消防団 副分団長	大 沼 正 勝 (82)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	鹿児島県	元 霧島市消防団 分団長	大 山 義 和 (86)	男
瑞単	鹿児島県	元 笠和町消防団 団長	川 畑 勝 廣 (84)	男
瑞単	鹿児島県	元 肝付町消防団 分団長	下 西 龍 太郎 (72)	男
瑞単	鹿児島県	元 鹿児島市消防団 部長	鶴 田 廣 志 (84)	男
瑞単	鹿児島県	元 鹿屋市消防団 分団長	永 井 守 (78)	男
瑞単	鹿児島県	元 日置市消防団 副団長	野 元 寛 (65)	男
瑞単	鹿児島県	元 薩摩川内市消防団 分団長	堀 切 俊 美 (73)	男
瑞単	鹿児島県	元 鹿児島市消防団 副分団長	松 葉 瀬 悟 (79)	男
瑞単	鹿児島県	元 日置市消防団 副分団長	松 山 謙 三郎 (77)	男
瑞単	鹿児島県	元 鹿屋市消防団 分団長	森 山 三 男 (82)	男
瑞単	鹿児島県	元 日置市消防団 副分団長	山 口 和 幸 (76)	男
瑞単	鹿児島県	元 鹿屋市消防団 分団長	和 田 敏 一 (81)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
瑞単	沖縄県	元 糸満市消防団 副団長	釜 城 正 次 (87)	男
瑞中	東京都	元 消防大学校消防研 究センター 所長	山 田 常 圭 (71)	男
旭双	島根県	現 (一社) 島根県消 防設備協会 会長	出 雲 正 樹 (70)	男
旭双	高知県	元 (一社) 高知県消 防設備協会 会長	中 尾 昭 一 (77)	男
旭双	和歌山県	現 和歌山県女性防火 クラブ連絡協議会 会長	須 佐 亮 佐 子 (78)	女
旭双	愛媛県	現 愛媛県婦人防火ク ラブ連絡協議会 会長	宮 前 港 (73)	女

## 令和7年秋の褒章受章者名簿（消防関係）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
藍綬	北海道	現 広尾町消防団 分団長	上野 穂彦 (74)	男
藍綬	北海道	現 網走地区消防組合 網走消防団 分団長	大串 一彦 (66)	男
藍綬	北海道	現 北見地区消防組合 訓子府消防団 団長	柴田 浩幸 (62)	男
藍綬	青森県	現 五戸町消防団 副団長	奥 康彦 (60)	男
藍綬	青森県	現 大間町消防団 副団長	坂本 春彦 (60)	男
藍綬	青森県	現 平川市消防団 副団長	相馬 静 (64)	男
藍綬	秋田県	現 大湯村消防団 副分団長	田口 幹雄 (56)	男
藍綬	秋田県	現 大湯村消防団 分団長	畑 正道 (57)	男
藍綬	山形県	現 西川町消防団 副団長	押野 一雄 (63)	男
藍綬	山形県	現 中山町消防団 分団長	齋藤 文彦 (55)	男
藍綬	山形県	現 大石町消防団 分団長	高野 一也 (62)	男
藍綬	福島県	現 塙町消防団 副団長	井坂 和吉 (58)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
藍綬	福島県	現 本宮市消防団 副団長	遠藤 隆 (54)	男
藍綬	福島県	現 須賀川市消防団 副団長	熊谷 勝幸 (54)	男
藍綬	福島県	現 桑折町消防団 副団長	佐藤 浩幸 (64)	男
藍綬	福島県	現 会津若松市消防団 分団長	瓶 孝夫 (71)	男
藍綬	福島県	現 南会津町消防団 副団長	湯田 和雄 (61)	男
藍綬	茨城県	現 かすみがうら市消防団 団長	久松 弘毅 (67)	男
藍綬	栃木県	現 栃木市消防団 副団長	飯島 寿亮 (55)	男
藍綬	栃木県	現 那須塩原市消防団 副団長	横山 武男 (53)	男
藍綬	群馬県	現 高崎市消防団 副団長	井上 利昌 (56)	男
藍綬	群馬県	現 安中市消防団 団長	等 島 良一 (58)	男
藍綬	埼玉県	現 小栗野町消防団 副団長	横田 勉 (57)	男
藍綬	千葉県	現 市川市消防団 副団長	今関 康博 (66)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
藍綬	千葉県	現 船橋市消防団 副団長	吉 穰一 茂 (52)	男
紅綬	千葉県	人命救助	近藤 瑞音 (21)	男
藍綬	東京都	現 芝消防団 団長	内田 幹夫 (71)	男
藍綬	東京都	現 武蔵野市消防団 団長	小野山 武男 (59)	男
藍綬	東京都	現 矢口消防団 副団長	折笠 弘幸 (73)	男
藍綬	東京都	現 神田消防団 副団長	嵐 尚勝也 (72)	男
藍綬	東京都	現 府中市消防団 団長	川崎 好之 (57)	男
藍綬	東京都	現 本郷消防団 分団長	西藤 繁和 (77)	男
藍綬	東京都	現 池袋消防団 分団長	宮坂 悦司 (71)	男
藍綬	東京都	現 荻窪消防団 副団長	山口 光弘 (72)	男
藍綬	東京都	現 金町消防団 副団長	山口 芳文 (68)	男
藍綬	東京都	現 田園調布消防団 副団長	山下 雅夫 (66)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
藍綬	東京都	現 四谷消防団 副団長	山本 眞輔 (62)	男
藍綬	東京都	現 麻布消防団 団長	六木 眞一 (68)	男
藍綬	東京都	現 王子消防団 副団長	渡邊 逸美 (71)	男
藍綬	神奈川県	現 横浜市旭消防団 副団長	上田 茂 (66)	男
藍綬	神奈川県	現 横須賀市消防団 副団長	遠藤 敏彦 (67)	男
藍綬	神奈川県	現 横浜市中区消防団 副団長	加藤 之弘 (64)	男
藍綬	神奈川県	現 横浜市長谷消防団 副団長	鈴木 和久 (62)	男
藍綬	神奈川県	現 横浜市港南消防団 副団長	鈴木 三仁 (62)	男
藍綬	神奈川県	現 横浜市青葉消防団 副団長	徳 正光 (61)	男
藍綬	神奈川県	現 横浜市港北消防団 分団長	廣井 徳栄 (65)	男
藍綬	石川県	現 七尾市消防団 分団長	芝 由男 (63)	男
藍綬	福井県	現 南越消防組合越前 市消防団 副団長	三好 勇治 (60)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
藍綬	山梨県	元 甲府市消防団 副団長	長田 祐二 (55)	男
藍綬	岐阜県	現 海津市消防団 団長	石原 忠則 (57)	男
藍綬	岐阜県	現 下呂市消防団 副団長	大森 克也 (58)	男
藍綬	岐阜県	現 飛騨市消防団 副団長	柏木 昭人 (57)	男
藍綬	岐阜県	現 高山市消防団 副団長	鴻巣 智 (60)	男
藍綬	岐阜県	現 瑞穂市消防団 副団長	國保 秀郎 (57)	男
藍綬	岐阜県	現 恵那市消防団 副団長	曾我 和貴 (57)	男
藍綬	岐阜県	現 瑞浪市消防団 副団長	中里 建史 (58)	男
藍綬	岐阜県	現 多治見市消防団 副団長	中山 毅 (61)	男
藍綬	岐阜県	現 下呂市消防団 副団長	村田 勝幸 (57)	男
藍綬	岐阜県	現 七宗町消防団 団長	森 琢己 (56)	男
藍綬	愛知県	現 名古屋市鶴舞消防 団 団長	石川 克彦 (60)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
藍綬	愛知県	現 名古屋千音寺消防 団 副団長	遠藤 誠一 (69)	男
藍綬	愛知県	現 岡崎市福岡消防団 団長	八木 俊治 (65)	男
藍綬	三重県	現 鈴鹿市消防団 分団長	石黒 秀明 (57)	男
藍綬	三重県	現 四日市市消防団 分団長	今村 恭樹 (71)	男
藍綬	三重県	現 四日市市消防団 分団長	加山 武徳 (62)	男
藍綬	三重県	現 伊賀市消防団 分団長	竹岡 毅 (52)	男
藍綬	三重県	現 津市消防団 副団長	武川 零松 (62)	男
藍綬	滋賀県	現 大津市消防団 副団長	井口 清美 (67)	男
藍綬	滋賀県	現 彦根市消防団 副団長	北川 幸夫 (63)	男
藍綬	滋賀県	現 栗東市消防団 副団長	宮 誠 源 (68)	男
藍綬	大阪府	現 大東市消防団 副団長	石田 巧 (59)	男
藍綬	大阪府	現 田尻町消防団 団長	射手 矢 禮三郎 (72)	男

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名(年齢)	性別
藍綬	大阪府	現 柏原市消防団 副団長	上田 康雄 (73)	男	藍綬	福岡県	現 香春町消防団 副団長	後藤 敏美 (62)	男	藍綬	宮崎県	現 延岡市消防団 分団長	前崎 国完 (58)	男
藍綬	大阪府	現 高槻市消防団 副団長	川上 敏弘 (64)	男	藍綬	福岡県	現 桂川町消防団 副団長	永水 祥之輔 (71)	男	藍綬	宮崎県	現 都城市消防団 副団長	末吉 俊一郎 (59)	男
藍綬	大阪府	現 高槻市消防団 副団長	田中 義仁 (61)	男	藍綬	福岡県	現 北九州市戸畑消防団 分団長	原田 豊久 (58)	男	藍綬	宮崎県	現 西都市消防団 副団長	中武 英一 (54)	男
藍綬	大阪府	現 松原市消防団 分団長	明瀬 逸治 (64)	男	藍綬	福岡県	現 桂川町消防団 副団長	原中 直 (76)	男	藍綬	鹿児島県	元 薩摩川内市消防団 団長	小牧 純一 (69)	男
藍綬	大阪府	現 枚方市消防団 副団長	吉水 穂之 (59)	男	藍綬	福岡県	現 嘉麻市消防団 分団長	草崎 浩史 (62)	男	黄綬	北海道	現 ナカ工業㈱ 代表取締役社長	佐久間 克行 (65)	男
藍綬	兵庫県	現 神戸市北消防団 団長	坂井 正和 (88)	男	藍綬	福岡県	現 糸田町消防団 副団長	村上 隆太 (69)	男	黄綬	埼玉県	現 ㈱赤尾 代表取締役社長	赤尾 隆 (56)	男
藍綬	兵庫県	現 神戸市垂水消防団 団長	森本 喜久 (68)	男	藍綬	福岡県	現 香春町消防団 副団長	吉野 安 (65)	男	黄綬	大阪府	現 オーハツ㈱ 取締役会長	芝谷 康二 (77)	男
藍綬	奈良県	現 五條市消防団 分団長	中山 宗一 (72)	男	藍綬	福岡県	現 飯塚市消防団 副団長	吉村 友宏 (58)	男	黄綬	群馬県	現 ㈱旭総合サービス 代表取締役会長	唐鎌 秀夫 (67)	男
藍綬	和歌山県	現 和歌山市消防団 副団長	辻 萌文 (67)	男	紅綬	福岡県	人命救助	新谷 稲翠 (46)	男	黄綬	岐阜県	現 技研㈱ 代表取締役社長	野村 観生 (74)	男
藍綬	岡山県	現 和気町消防団 副団長	菊井 隆 (58)	男	藍綬	熊本県	現 熊本市消防団 副団長	大島 直樹 (50)	男	黄綬	兵庫県	現 ㈱防災センター 代表取締役	橋本 聡 (67)	男
藍綬	福岡県	現 飯塚市消防団 分団長	小野山 洋平 (60)	男	藍綬	宮崎県	現 都城市消防団 副団長	入水 雅博 (56)	男	黄綬	奈良県	現 ㈱奈良防災センター 代表取締役会長	浅野 和洋 (71)	男
藍綬	福岡県	現 水巻町消防団 分団長	黒瀬 義明 (65)	男	藍綬	宮崎県	現 延岡市消防団 分団長	岩切 富重 (49)	男					

## 公益財団法人 日本消防協会 ホームページのご案内

日本消防協会ホームページでは、各種案内をしております。  
また、各種共済制度や年金制度の申請様式をダウンロード  
できますので、下記URLまたはQRコードからホームページにア  
クセスしてください。

<https://www.nissho.or.jp/>



## 大規模災害に対応できる 消防団を目指して



南陽市消防団 団長 しかま 色摩 さだき 貞樹

山形県南陽市は県南部に位置し、東北の伊勢と称される熊野大社、開湯900年以上の歴史を誇る赤湯温泉、日本さくら名所百選に選ばれた烏帽子山公園など豊かな自然と歴史に恵まれたまちであり、この地域を管轄する南陽市消防団は、現在751名の団員が在籍し、地域住民の安心・安全のため日夜活動しています。

近年、自然災害が激甚化、頻発化しており、消防団の役割がより一層重要となるなか、あらゆる災害への対応はもとより、災害発生直後における住民の避難誘導や救助活動など、団員一人ひとりのリーダーシップが期待されています。

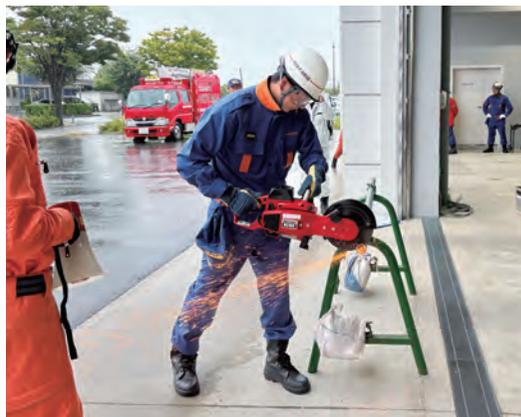
こうした状況を踏まえ、平成20年には総務省消防庁から救助資材搭載型車両の貸与を受け、平成23年の東日本大震災、平成25年・26年の本市豪雨災害を契機として、救助資機材搭載型消防ポンプ自動車、山林火災特化型消防ポンプ自動車、多機能型積載車を順次配備しており、配備された消防資機材を安全かつ効果的に活用するため、救助資機材取扱訓練を毎年実施しております。

訓練は徹底した安全管理のもと、救助技術の習得により大規模災害に備えることを目的とし、各分団が合同で訓練を実施することで技術格差が解消される効果もあり、団員は真剣な姿勢で訓練に取り組んでいます。

こうした継続的な訓練により、団員一人ひとりの災害対応力向上を図り、消防団員を中心とした共助の力で、地域住民の安心・安全を守ることができる消防団を目指してまいります。



建物倒壊救出救助訓練



資機材取扱い訓練



## 地域防災力の強化に向けて ～信頼される消防団を目指して～

なごみまち

和水町消防団 団長 小山 亮

熊本県玉名郡和水町は熊本県北西部の福岡県との県境に位置し、北は福岡県八女市、東は山鹿市、南は玉名市、玉東町、西は南関町と接しており、九州縦貫自動車道菊水インターチェンジを有しています。

和水町消防団は、現在396名(令和7年9月1日(月)現在)の団員が在籍し、日々、町の安全・安心のために活動を行っています。近年、災害の激甚化・頻発化により、消防団に求められる対応も複雑化していることを受け、和水町消防団では火災対応だけではなく、地域防災の中核的な担い手としての取り組みも進めています。

その一つが、消防団幹部による防災士資格の取得です。防災士資格の取得を通して、災害への意識と知識・技能を習得し、「自助・共助・協働」の原則に基づき、平時・災害時を問わず、地域防災に積極的に関与できるリーダーを育成することを目的に取り組んでいます。そこで学ぶ知識と実践的な視点は、消防団活動にも大いに資するものと考えています。

資格取得後は、地域の防災訓練や啓発活動に参画し、これまで以上に地域に根差した活動を展開していく予定です。

今後も町民の生命と財産を守るという使命のもと、信頼される消防団を目指して、団員一丸となって組織の充実と地域防災力の強化に取り組んでまいります。



新入団員の規律訓練の様子



国土交通省 菊池川河川事務所との合同巡視の様子

うちの

# 名物団員



山形県

西川町消防団 本部付分団長

菅野 喜章

西川町消防団からは、菅野喜章本部付分団長(指導員)を紹介します。

菅野指導員は、町内建設業に勤めており冬期間は豪雪地である西川町の除雪オペレーターとして40年にわたり冬道の安全を守っており、令和6年度には、そのご尽力を称え町から感謝状も贈られました。

消防団では、指導員として日々団員の指導や、町の防災活動にご尽力いただいております。



西川町消防団 団員

白田 和穂

西川町消防団からもう一人、白田和穂団員を紹介します。

白田団員は、町の老人福祉施設に勤めており、その明るい性格から幅広い年齢層の方に人気の団員です。

地区行事に積極的に参加しており、駅伝大会等にも全力で取り組んでいます。

消防団では、町春季消防演習の自動車ポンプ操法披露で1番員を務めるなど積極的に参加し、活躍しています。



石川県

輪島市消防団 団員

山下 祐介

輪島市消防団からは、山下祐介団員を紹介します。米農家を営む山下団員は、令和6年能登半島地震や奥能登豪雨で被災しました。高齢化が進む地域で、地域の繋がりを守っていきたいとの思いから、有志と共に災害FM「まちのラジオ」を立ち上げ、消防魂を胸に、度重なる大災害から復興に向かう地域の拠り所となるような放送を続けています。



前田 勝也

加古川市消防団からは、前田副団長を紹介します。

元外国語大学空手道部主将の前田副団長は希少石、宝飾品を多数販売し、宝石業界に携わって47年になります。加古川市消防団活動では消防出初め式において、はしご乗り演技の総指揮を3年間、勇ましいかけ声で市民と団員を魅了し、見事に努めあげられました。

現在は仕事の傍ら、卓球やゴルフに取り組む日々を送っています。

ユーモアとバイタリティーあふれる前田副団長の今後のますますのご活躍を期待しております。



筑後市消防団 団本部 部長

かわなみ みえ  
川浪 三枝

筑後市消防団からは、女性団員の川浪三枝部長を紹介します。

川浪部長は、女性消防団員発足当初に入団し22年目を迎え、女性団員20名を束ねるパワフルで中心的な存在です。今年度は第26回全国女性消防操法大会に部長自ら3番目で出場し、見事準優勝を飾りました。

これからも地域住民のために、女性団員が活性化することを期待します。



第6回福岡県女性消防操法大会 優勝(9月7日開催)  
(川浪部長は、上段の右から2番目です。)

なごみまち  
和水町消防団 女性部 部長

原賀 和代

小学校の校務支援員として、日々子ども達と向き合う和水町消防団女性部の原賀部長は、総合型地域スポーツクラブ副会長やスポーツ推進委員、地域の歴史継承を目的とする「戦国肥後国衆一揆顕彰会」メンバーなど様々な顔を持っています。勤務先の小学校では、消防団での訓練を活かし救急救命講習のサポートを行うなど、命の尊さを子ども達に伝えます。

溢れんばかりの郷土愛と子ども達への愛情、自分たちの地域は自分たちで守るという熱い使命感は、特に若い女性団員への良い手本になっています。



# 消防団の広場

## 新潟県 郷土の為に



阿賀町消防団  
団長

伊藤 昭夫



阿賀町は新潟県の東部に位置し、飯豊連峰や御神楽岳を代表とする多くの山々と豊富な森林資源、そして阿賀野川と常浪川の流に恵まれた水と緑の美しい町です。町の中心部は比較的平坦ですが周辺は急峻な山岳地帯に囲まれており、管轄範囲の97%を森林で占めています。

阿賀町消防団は、平成17年に4町村の合併に伴い、人口15,000人の町で900名の消防団員が在籍し1本部、4方面隊、16個分団、女性消防隊等の組織を以って活動を開始しました。

現在は人口9,000人に対して団員424名が1本部、4分団、女性消防隊、機能別団員が生業の傍ら、町民の安心・安全を守るため、災害時の出動をはじめ、各種訓練や住民への火

災予防啓発等の様々な活動をしています。

年間の火災件数は2～3件ですが、毎年のように山岳遭難事案が発生しています。山菜取りやキノコ狩りが主であり町外者、町内者問わず搜索活動を行っています。山岳遭難は砂漠の中の一滴の水を探すようなもので困難を極め、人手が頼りとなり平日ともなれば団員は仕事を休んで早朝から活動に当たります。

1日で発見できれば良いですが2～3日活動するのは当たり前で仕事を休んで活動に参加できる団員は年々減少傾向にあります。

入山する方々のマナーとしてGPSを必須の携行品として入山することを常として頂きたいと実感しております。

全国の消防団員が減少している中で当町も同じ状況であり、災害活動に支障が出てからでは遅いということで令和4年に災害活動に特化した機能別消防団員を発足しました。

寄稿時点ではまだ、機能別団員が出動するような災害は発生していませんが、いつでもどんな災害が発生しても対応できるよう郷土の為に消防団員としてできることから準備し続けていきたいと思っております。



一斉放水



保育園で防火指導

## 2025年度 全国統一防火標語

# 「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」

## 令和8年1月・2月の日本消防協会関係行事

1月13日(火)～16日(金)	第52回消防団幹部特別研修
1月28日(水)～30日(金)	第25回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)
1月下旬予定	全国消防殉職者遺族会理事会
2月上旬予定	(生協)全日本消防人共済会 理事会
2月中旬予定	(公財)消防育英会 定時理事会
	第2回福祉共済事業等運営委員会
2月18日(水)～20日(金)	第25回消防団幹部候補中央特別研修(女性の部)
2月24日(火)～3月7日(土)	中国消防研修視察団来日
2月27日(金)(午後)	都道府県消防協会事務局長会議
	(生協)全日本消防人共済会 事務長会議

## 編集後記

秋の澄んだ青空に映える、鮮やかに色づいた銀杏の黄葉は、私の好きな景色の一つです。こんにちは！編集担当、TKです。

古くから、銀杏は防火に深く関わる樹木として知られています。例えば関東大震災では、銀杏の木が防火に大きな役割を果たし、人々の命を守った事例が数多く記録されています。特に寺社や公園に植えられた銀杏が延焼を食い止め、避難者を救ったと伝えられています。東京・浅草の浅草寺には、寺に迫った火焔を銀杏が水を吹いて消したという伝説が残されており、人々の銀杏に対する防火樹としての信頼性が伝わってきます。

街の公園などに植えられた銀杏を見ると、植えた人々の「街を守りたい」という思いが伝わってきて、何とも穏やかで優しい気持ちになります。

最後に、防火とは全く関係のない話ですが——銀杏を食べず嫌いだった日消の研修生仲間が、出張先で銀杏の串焼きを食べて銀杏大好きになりました。何となく、嬉しい気持ちになりました。それではまた来月！

※銀杏の防火力が高いのは夏季の着葉時と言われています。また、銀杏のみが防火力の高い樹木ではなく、カシ類、シイ類などの常緑樹も防火力の高い樹木として知られています。



## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※年間購読料(送料込) 2,508円  
(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9496

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けています。 [kikou@nissho.or.jp](mailto:kikou@nissho.or.jp)

月刊「日本消防」第七十八巻第十二号  
令和七年十二月五日印刷  
令和七年十二月十日発行

編集人 米澤健

発行所 (公財)日本消防協会

東京都港区虎ノ門二丁目九番十六

電話 〇三(6263)九四〇二(代)

印刷所

東京都中央区銀座七丁目一六二二

株式会社アイネット

電話 〇三(3549)五六〇〇

# 消防人の 火災共済

## 風水雪害等共済金

### 補償倍率UP

### 300倍から750倍へ

消防団員  
消防職員  
ならどなたでも  
加入できます

まさかの時お役に立ちます。

地震等災害見舞金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)  
火災共済金375万円のお支払い

## 1500倍補償

### B型火災共済

**消防団  
消防本部** 毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

**落雷の損害にも対応!!** 建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部(消防協会)へ。



お支払  
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

●地震等災害見舞金

地震・津波・噴火

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-6263-9822  
詳しくはホームページをご覧ください <https://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

# 消防個人年金

積立金には予定利率(年1.25%)、配当率が適用されます。

老後生活に向けた  
計画的な財産形成  
が可能です。

月払の場合、  
毎月一万円(ゆうちょ  
銀行は五千円)から  
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、  
年金(6種類)又は  
一時金からご選択  
いただけます。

途中で脱退しても、  
積立金(脱退一時金)  
が受け取れます。

税制適格コースは  
個人年金保険料控除  
自由選択コースは  
一般の生命保険料控除  
の対象となります。

消防団員、消防職員  
の退団・退職後も  
継続できます。

(パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先)

公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00~17:00

お問い合わせ先

(公財)日本消防協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目9番16号  
TEL.(03)6263-9401 (代表)  
<https://www.nissho.or.jp>

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会